

静岡県人事行政の運営等の状況の公表に関する条例（平成17年静岡県条例第23号）第6条の規定により、静岡県の人事行政の運営状況の概要及び人事委員会の業務の状況を公表する。

平成28年10月31日

静岡県知事 川勝平太

I 静岡県人事行政の運営等の状況の概要

1 任免及び人数に関する状況

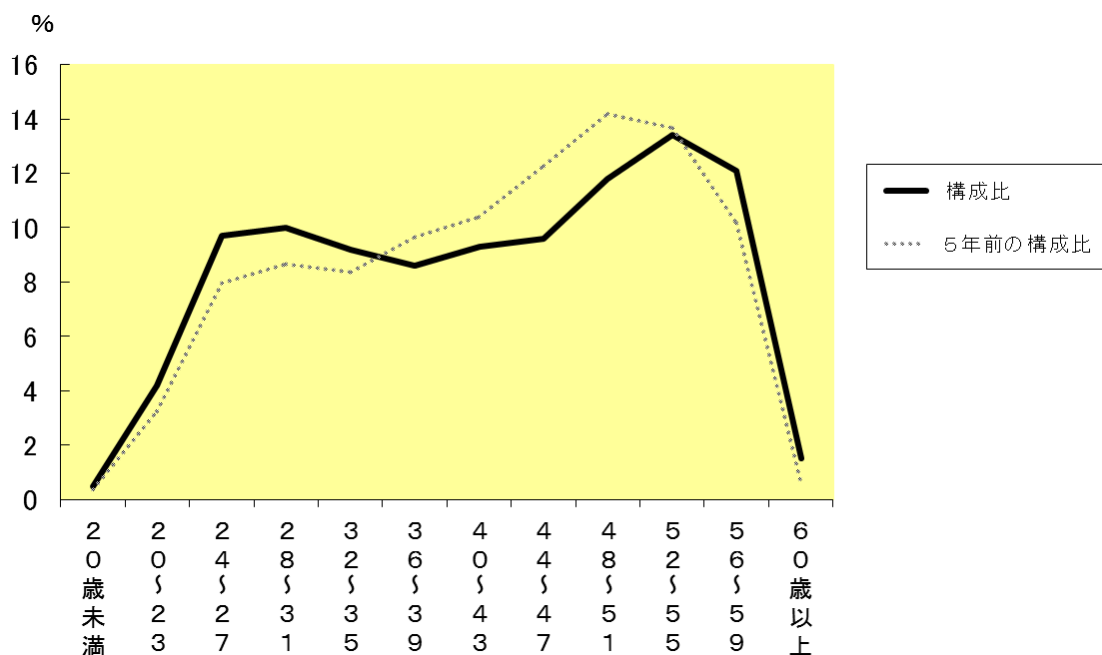
(i) 部門別職員数の状況と主な増減理由 (各年4月1日現在)

区 分 部 門		職 員 数		対前年 増減数	主 な 増 減 理 由
		平成27年	平成28年		
普通 会計 部門	議会	41	41	±0	<ul style="list-style-type: none"> ・地域外交の推進など ・課税調査体制の見直しなど ・企業経営支援体制の見直しなど ・戦略的な農業施策の推進など ・大規模スポーツイベントの推進など ・外郭団体への職員派遣の見直しなど
	総務	959	959	±0	
	税務	467	461	▲6	
	民生	508	506	▲2	
	衛生	694	693	▲1	
	労働	139	136	▲3	
	農林水産	1,319	1,324	+5	
	商工	336	361	+25	
	土木	1,144	1,126	▲18	
	計	5,607	5,607	±0	
	教育部門	24,944	24,951	+7	・特別支援学校の学級数の増加に伴う教員の増員など
	警察部門	6,990	6,982	▲8	・組織体制の見直しに伴う減員など
	小 計	37,541	37,540	▲1	(参考：人口10万人当たり職員数 1,018人)
公営 企業等 会計 部門	病院	1,008	1,037	+29	・診療機能強化への対応など
	水道	45	45	±0	
	下水道	18	19	+1	
	その他	117	119	+2	
	小 計	1,188	1,220	+32	
合 計		38,729 [41, 149]	38,760 [41, 224]	+31 [+75]	(参考：人口10万人当たり職員数 1,051人)

(注1) 職員数は一般職に属する職員数である。

(注2) []内は、条例定数の合計である。

(2) 年齢別職員構成の状況（平成28年4月1日現在）



区分	20歳未満	20歳～23歳	24歳～27歳	28歳～31歳	32歳～35歳	36歳～39歳	40歳～43歳	44歳～47歳	48歳～51歳	52歳～55歳	56歳～59歳	60歳以上	計
職員数	177	1,624	3,765	3,888	3,571	3,352	3,622	3,729	4,572	5,191	4,706	563	38,760

(3) 採用及び退職の状況（平成27年度）

部門	区分	採用 (人)	離職(人)								合計
			退職					免職		失職	
			定年	勸奨	普通	死亡	任期満了	分限	懲戒		
一般会計	知事部局等	220	150	8	68	4	4		3	1	238
	教育関係	1,138	728	179	126	14			3		1,050
	警察関係	284	146	23	117	6					292
	小計	1,642	1,024	210	311	24	4		6	1	1,580
特別会計	病院	103	2		72						74
	病院以外		4		1						5
	小計	103	6		73						79
合計		1,745	1,030	210	384	24	4		6	1	1,659

(注1) 採用は、平成27年4月2日から平成28年4月1日の間に採用した者の人数である。

(注2) 退職は、平成27年4月1日から平成28年3月31日の間に退職した者の人数である。

(注3) 教育関係の欄の数値には、政令市立学校の教職員を含む。

(4) 女性職員の管理職への登用状況 (平成28年4月1日現在 単位：人)

区分		総登用数 (A)	うち女性数 (B)	割合B/A (%)	
知事 部局等	部長級	52	2	3.8%	
	局長級	92	5	5.4%	
	課長級	574	58	10.1%	
	計	718	65	9.1%	
教育	教育 事務 委員 会	部長級	3	0	0.0%
		局長級	5	0	0.0%
		課長級	22	1	4.5%
		計	30	1	3.3%
	教員	校長	594	99	16.7%
		副校長	127	17	13.4%
		教頭	623	115	18.5%
計	1,344	231	17.2%		
警察	参事官級	35	0	0.0%	
	所属長・管理官級	164	2	1.2%	
	計	199	2	1.0%	

*警察については、部長級職員は全て国家公務員であるため除いている。

(5) 再任用職員の状況 (平成28年4月1日現在 単位：人)

	フルタイム勤務	短時間勤務				合計
	週38時間45分	週30時間	週31時間	週23時間15分	週19時間25分	
知事部局等	123	2	2	60		187
教育委員会	623		2		358	983
警察本部	2			70		72
合計	748	2	4	130	358	1,242

(注) 教育委員会の欄の数値には、政令市立学校の教職員を含む。

(6) 定員管理の数値目標及び進捗状況

① 平成26年4月1日～平成30年4月1日における定員管理の数値目標

平成26年4月1日 (職員数)	平成30年4月1日 (職員数)	純減数	純減率
5,806 人	5,706 人	100 人	1.7 %

(注) 職員数は、一般行政部門 (病院以外の公営企業会計部門を含む) における職員数。

【参考】 静岡県行財政改革大綱における定員管理の数値目標

計画期間		数値目標
始期	終期	
平成26年4月1日	平成30年4月1日	一般行政部門 (病院以外の公営企業会計部門を含む) の職員数について、平成30年までの4年間で100人の削減を行う。

② 定員管理の数値目標の年次別進捗状況（実績）の概要 （各年4月1日現在）

区 分 部 門		26年	28年	27年～28年	数値 目標	（参考）前行政改革大綱			
		計画始期	2年目	計		22年	26年	22年～26年	数値
		計画始期	4年目	計		計画始期	4年目	計	目標
一 般	職員数	5,806	5,792		5,706	5,911	5,806		5,811
行 政	増 減		1	▲14	▲100		▲7	▲105(105%)	▲100

（注1） （ % ）内の数値は、数値目標に対する進捗率を示す。

（注2） 増減は、各年の欄にあつては対前年比の職員増減数を、計の欄にあつては計画1年目以降現年までの職員増減数の累計を示す。

2 人事評価の状況（平成27年度）

区 分	概 要
知事部局等	<ul style="list-style-type: none"> 全職員を対象として、年1回勤務成績記録書に基づく評価を行い、昇給の可否の決定等の人事管理の基礎資料として活用している。 全職員を対象として、職務に関連した具体的な行動例を評価項目とした勤務成績評価を年2回（6月、12月）の勤労手当の成績率に反映している。 職員が職務を遂行するに当たり発揮した能力及び挙げた業績を把握した上で行う人事評価の結果を、平成28年4月から、任用、給与、分限その他の人事管理の基礎とするために、人事評価制度の見直しを行った。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> 公立学校教職員については、年1回勤務成績評価を行い、人事管理の基礎資料としている。 教育委員会事務局等の職員については、職務に関連した具体的な行動例を評価内容とした勤務成績評価を年2回（6月、12月）の勤労手当の成績率に反映している。また、人事評価の結果を、平成28年4月から、任用等の人事管理の基礎とするために、人事評価制度の見直しを行った。
警察本部	<ul style="list-style-type: none"> 全職員を対象として、職員の職務に関連した具体的な行動例を評価項目とした評価を毎年12月に行い、昇給、昇任、人事配置等の人事管理の基礎資料として活用している。 全職員を対象として、勤務成績評価を6月、12月の年2回（6月、12月）の勤労手当の成績率に反映している。 職員が職務を遂行するに当たり発揮した能力及び挙げた業績を把握した上で行う人事評価制度の試行運用を平成28年1月から開始しており、今後、人事評価の結果を任用、給与、分限その他の人事管理の基礎としていくこととしている。

3 給与の状況

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

区 分	住民基本台帳人口 (28年1月1日)	歳 出 額 A	実質収支	人 件 費 B	人件費率 B/A	（参考） 26年度の人件費率
	人	千円	千円	千円	%	%
27年度	3,770,619	1,146,988,709	6,141,955	368,700,607	32.1	31.7

(2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

区 分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
27年度	人 37,541	千円 168,573,991	千円 35,676,453	千円 65,455,842	千円 269,706,286	千円 7,184

(注1) 職員手当には退職手当を含まない。

(注2) 職員数は、平成27年4月1日現在の人数である（臨時講師を除く）。

(注3) 給与費計には臨時講師分が含まれている。

【参考】

区 分	職員数 A	給 与 費				一人当たり給与費 B/A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
27年度	人 39,932	千円 168,573,991	千円 35,676,453	千円 65,455,842	千円 269,706,286	千円 6,754

(注) この表は、(2)の給与費計には臨時講師分が含まれており、職員数には臨時講師分は含まれていないため、平成27年4月1日現在の臨時講師の人数2,391人を含んで算出したものである。

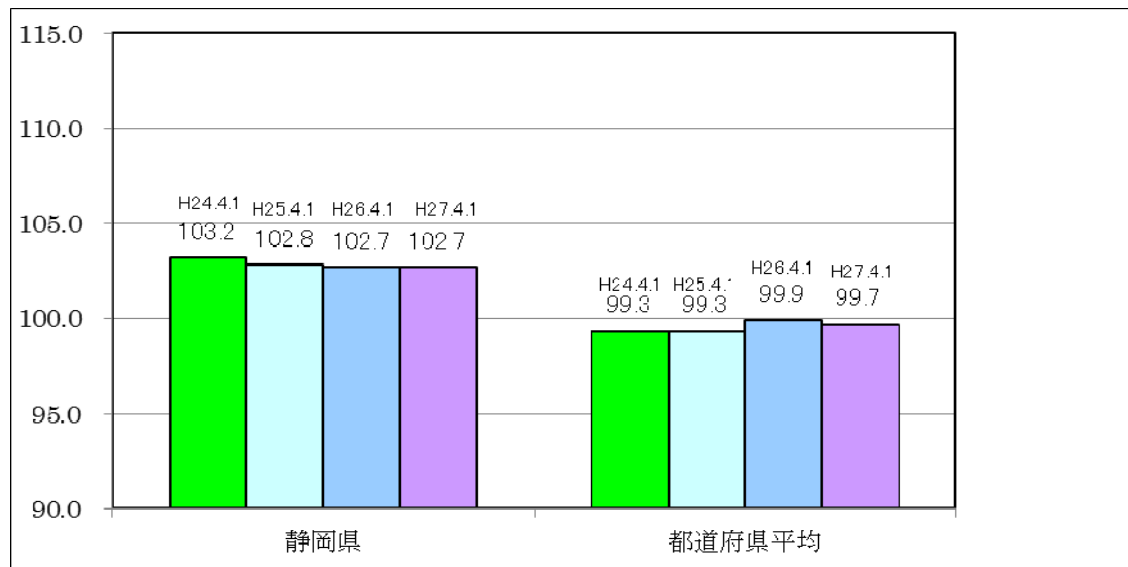
(3) 平均給与月額状況（他の都道府県との比較）

(平成27年4月1日現在)

順位	都道府県	H27 平均給与月額（円）	H26 平均給与月額（円）	H27-26 差額（円）
1	東京都	400,187	402,187	△2,000
2	神奈川県	392,571	382,238	+10,333
3	兵庫県	390,192	393,936	△3,744
16	群馬県	375,254	375,209	+45
17	静岡県	374,854	374,184	+670
	国	408,996	408,472	+524

(注) 「平均給与月額」とは、給料月額と諸手当月額(扶養手当、地域手当、住居手当、初任給調整手当、単身赴任手当、特勤勤務手当、管理職手当、寒冷地手当)を合計したもの。

(4) ラスパイレス指数の状況



(注1) ラスパイレス指数とは、全地方公共団体の一般行政職の給料月額を同一の基準で比較するため、国の職員数（構成）を用いて、学歴や経験年数の差による影響を補正し、国の行政職俸給表（一）適用職員の俸給月額を100として計算した指数。

(注2) 平成24年及び平成25年は、国家公務員の時限的な（2年間）給与改定・臨時特例法による給与減額措置がないとした場合の値である。

※ 平成27年4月1日のラスパイレス指数が、①3年前に比べ1ポイント以上上昇している場合、②3年連続で上昇している場合、③100を超えている場合について、その理由及び改善の見込み

【主な理由】
本県では、人事委員会勧告に基づき、職員の給与水準を民間の給与水準と均衡させるため、給料表の給料月額に一定率を乗じて水準調整しているため。
【改善の見込み】
平成22年4月から組織や職位を見直し、これに合わせて、給与についても「職務給の原則」を徹底すべく、職務の級の適用を新たな職に応じて定め直したところであり、今後、給与水準の適正化が図られるものと考えている。

(5) 給与改定の状況

① 月例給

区 分	人事委員会の勧告			
	民間給与 A	公務員給与 B	較差 A-B	勧告 (改定率)
	円	円	円	%
28年度	387,255	383,881	3,374 (0.88%)	0.88

(注) 「民間給与」、「公務員給与」は、人事委員会勧告において公民の4月分の給与額をラスパイレス比較した平均給与月額である。

② 特別給

区 分	人事委員会の勧告			
	民間の支給 割合 A	公務員の 支給月数 B	較差 A - B	勧告 (改定月数)
28年度	4.32 月	4.20 月	0.12 月	0.10 月

(注) 「民間の支給割合」は民間事業所で支払われた賞与等の特別給の年間支給割合、「公務員の支給月数」は期末手当及び勤勉手当の年間支給月数である。

(6) 給与制度の総合的見直しの実施状況について

【概要】

国の給与制度の総合的見直しにおいては、俸給表の水準の平均2%の引下げ及び地域手当の支給割合の見直し等に取り組むとされている。

① 給料表の見直し

[**実施**] 未実施

実施内容（平均引下げ率、実施（実施予定）時期、経過措置の有無等具体的な内容（未実施の場合には、その理由））

【給料表の改定実施時期】

平成27年4月1日

【内容】

一般行政職の給料表について、国の見直し内容を踏まえ、平均2%引下げ。若年層については引下げなし。高齢層については最大4%程度引下げ。激変緩和のため、3年間（平成30年3月31日まで）の経過措置（現給保障）を実施。

他の給料表については、一般行政職給料表との均衡を踏まえて見直しを実施。

② 地域手当の見直し

実施内容（国基準における場合の支給割合及び当該団体の支給割合）※普通会計ベースにより算出

【制度完成時の支給割合】

国基準3.77%に対し、静岡県においては3.70%を支給。

【見直しの実施時期】

平成27年4月1日より実施。段階的に支給割合を引上げることとし、平成27年4月1日時点は3.40%、給与改定後は平成27年4月に遡及し3.60%を支給。

（平成30年4月（制度完成時）までの支給割合は、今後、人事委員会から示される予定）

【参考】

	平成26年度 の支給割合	平成27年度 の支給割合		見直し後の 支給割合 (H30.4.1)
		4月1日時点	遡及改定後	
国基準による支給割合	3.43%	3.55%	3.65%	3.77%
静岡県の支給割合	3.00% ※	3.40%	3.60%	3.70%

※平成26年4月1日現在の支給割合。平成26年10月の人事委員会勧告に基づき、3.40%に改定済み。

③その他の見直し内容

人事委員会勧告に基づき、扶養手当について、子育て支援・世代間の給与配分の見直しの観点から支給額を改定。管理職員特別勤務手当及び単身赴任手当については、国と同様に見直しを実施。
(平成27年4月1日実施)

(7) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況（平成28年4月1日現在）

① 一般行政職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国比較ベース)
静岡県	42.5歳	335,465円	434,894円	371,893円

② 技能労務職

区分	公務員					民間			参考 A/B
	平均年齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額 (A)	平均給与月額 (国比較ベース)	対応する民間 の類似職種	平均年齢	平均給与月額 (B)	
静岡県	54.3歳	205人	326,103円	374,728円	349,368円	-	-	-	-
うち用務員	54.9歳	112人	309,554円	339,602円	330,850円	用務員	45.8歳	232,282円	1.42
うち運転手	56.2歳	28人	356,485円	444,232円	385,329円	自家用兼用自動車運転手	54.6歳	534,268円	0.72
うち守衛	—	—	—	—	—	守衛	51.2歳	364,025円	-
うちその他技能労務職	52.4歳	65人	341,531円	405,312円	365,954円	-	-	-	-

(注1) 民間データは、静岡県人事委員会が行った「平成28年職種別民間給与実態調査」において公表されているデータを使用している。

(注2) 職種別民間給与実態調査における調査対象従業員は、常時勤務する従業員のうち、期間を定めず雇用されている者とし、臨時の者を除いている。

③ 高等（特別支援・専修・各種）学校教育職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
静岡県	43.8歳	385,148円	445,471円

④ 小・中学校（幼稚園）教育職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
静岡県	43.6歳	375,975円	424,438円

⑤ 警察職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国比較ベース)
静岡県	38.0歳	324,375円	442,728円	358,128円

(注1) 「平均給料月額」とは、平成28年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均である。

(注2) 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。

また、「平均給与月額(国比較ベース)」は、比較のため、国家公務員と同じベース(=時間外勤務手当等を除いたもの)で算出している。

(8) 職員の初任給の状況(平成28年4月1日現在)

区 分		静 岡 県	国
一般行政職	大学卒	184,894円	176,700円
	高校卒	150,296円	144,600円
技能労務職	高校卒	147,976円	—
	中学卒	135,165円	—
高等学校教育職	大学卒	206,480円	—
	高校卒	161,190円	—
小・中学校教育職	大学卒	206,480円	—
	高校卒	161,190円	—
警 察 職	大学卒	214,348円	205,200円
	高校卒	178,741円	166,700円

(9) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額(平成28年4月1日現在)

区 分		経験年数 10年	経験年数 20年	経験年数 25年	経験年数 30年
一般行政職	大学卒	275,711円	363,099円	389,087円	413,744円
	高校卒	231,444円	325,374円	362,620円	392,721円
技能労務職	高校卒	—	—	—	374,328円
	中学卒	—	—	313,503円	352,860円
高等学校 教育職	大学卒	320,071円	415,023円	434,562円	444,320円
	高校卒	—	339,618円	362,588円	387,727円
小・中学校 教育職	大学卒	318,840円	406,209円	424,724円	434,012円
	高校卒	—	—	—	—
警察職	大学卒	284,237円	393,385円	421,485円	429,904円
	高校卒	256,371円	357,587円	399,931円	424,916円

(注1) 上記集計のうち、次に示す区分については、該当者が3人以下のため、前後1年の実績を加算、平均して算出している。

- ・技能労務職・高校卒の経験年数30年
- ・高校教育職・高校卒の経験年数20年
- ・高校教育職・高校卒の経験年数25年
- ・高校教育職・高校卒の経験年数30年

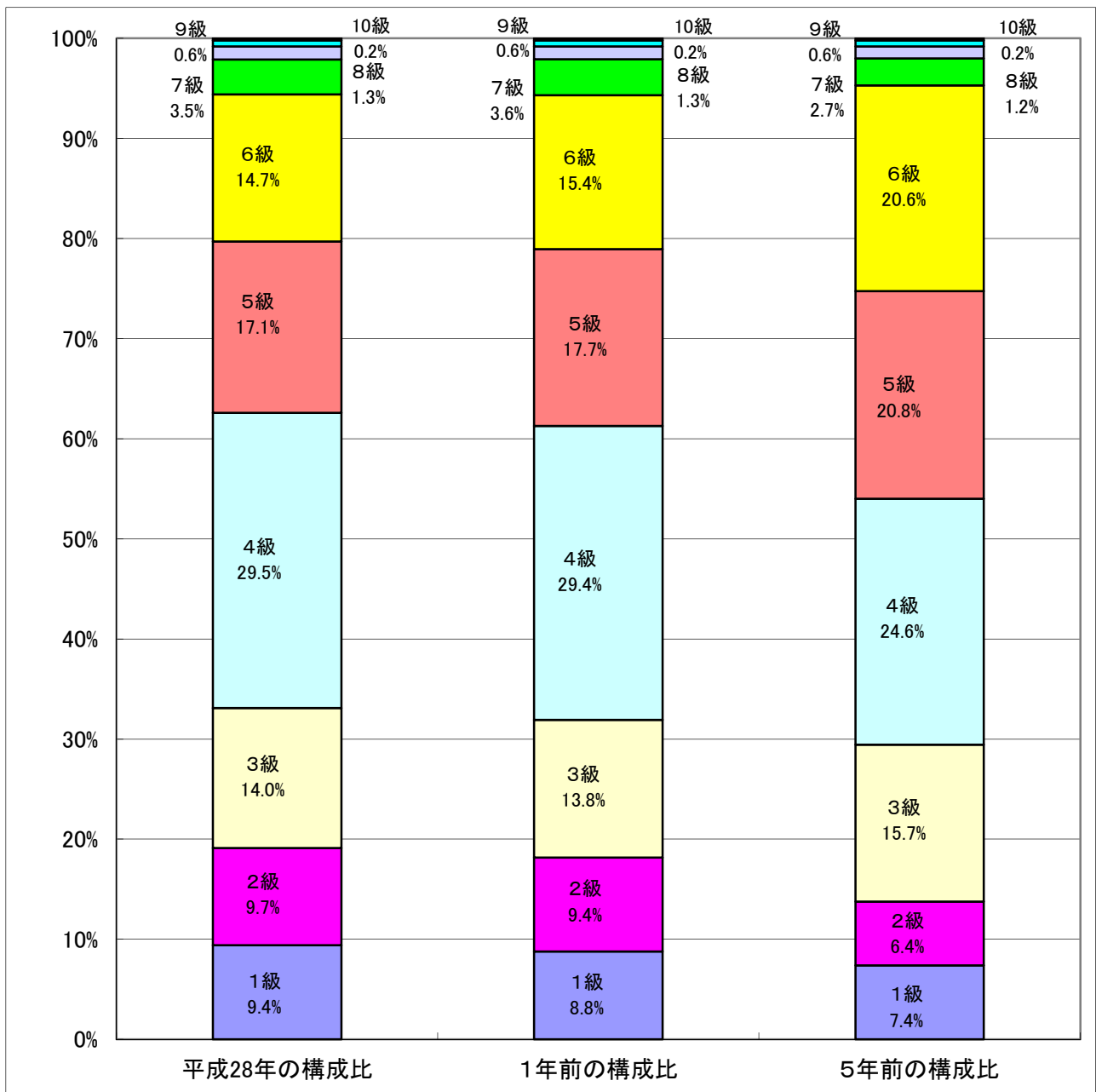
(注2) 該当者がいない場合または前後1年の実績を加算しても該当者が3人以下の場合は、「ハイフン(—)」としている。

(10) 一般行政職の級別職員数及び給料表の状況（平成28年4月1日現在）

区分	標準的な職務内容	職員数	構成比	1号給の給料月額	最高号給の給料月額
10 級	本庁の部長	11 人	0.2 %	525,028 円	563,157 円
9 級	本庁の部長代理	38 人	0.6 %	461,177 円	530,878 円
8 級	本庁の局長	84 人	1.3 %	410,440 円	471,466 円
7 級	本庁の課長	227 人	3.5 %	364,443 円	447,560 円
6 級	本庁の参事 本庁の課長代理	957 人	14.7 %	319,757 円	412,558 円
5 級	班長、主幹	1,114 人	17.1 %	288,689 円	395,208 円
4 級	副班長、主査	1,918 人	29.5 %	262,161 円	386,332 円
3 級	主任	907 人	14.0 %	228,369 円	351,834 円
2 級	高度の知識又は経験を 必要とする業務を行う 主事、技師	633 人	9.7 %	191,854 円	305,636 円
1 級	定型的な業務を行う主 事、技師	609 人	9.4 %	141,318 円	248,241 円

(注1) 職員の給与に関する条例に基づく給料表の級区分による職員数である。

(注2) 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



(ii) 昇給への勤務成績の反映状況

知事部局等職員の昇給を平成28年1月1日付で次のとおり実施した。

ア 特定職員

区分	上位	標準	下位
昇給号給数	4号給以上	3号給	2号給以下
人員分布率	41.3%	58.2%	0.5%

イ 一般職員(特定職員以外の職員)

区分	上位	標準	下位
昇給号給数	5号給以上	4号給	2号給以下
人員分布率	18.5%	76.5%	5.0%

(注1) 特定職員とは、行政職給料表の6級以上の職員(に相当する職員を含む。)で、かつ管理職手当の支給対象となる職員をいう。

(注2) 昇給号給数は、55歳超の昇給抑制者以外の場合の号給数。

(注3) 下位区分については、勤務した期間が短いことにより適用された者を含む。

(12) 期末手当・勤勉手当

静岡県		国	
1人当たり平均支給額(27年度)		-	
1,606千円			
(27年度支給割合)		(27年度支給割合)	
期末手当	勤勉手当	期末手当	勤勉手当
2.6月分	1.60月分	2.6月分	1.60月分
(1.45)月分	(0.75)月分	(1.45)月分	(0.75)月分
(加算措置の状況)		(加算措置の状況)	
職制上の段階、職務の級等による加算措置		職制上の段階、職務の級等による加算措置	
・役職加算	5~20%	・役職加算	5~20%
・管理職加算	20~25%	・管理職加算	10~25%

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

【参考】勤勉手当への勤務成績の反映状況(一般行政職)

知事部局等においては、特定幹部職員(課長級以上の管理職)及び特定幹部職員以外の職員をそれぞれ対象とした勤務成績評価を年2回行い、勤勉手当の成績率に反映している。

平成28年6月支給の勤勉手当の実績は次のとおりである。

ア 特定幹部職員

区分	上位	標準	下位
主な成績率	125.0/100~ 111.0/100	97.0/100	97.0/100未満
人員分布率	35.7%	64.3%	0%

(注) 人員分布率は再任用職員を除いた割合である。

イ 特定幹部職員以外の職員

区分	上位	標準	下位
主な成績率	90.0/100~84.5/100	79.0/100	79.0/100未満
人員分布率	47.1%	52.8%	0.1%

(注) 人員分布率は再任用職員を除いた割合である。

(13) 退職手当（平成28年4月1日現在）

静岡県			国		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	応募認定・定年
勤続20年	20.445月分	25.55625月分	勤続20年	20.445月分	25.55625月分
勤続25年	29.145月分	34.5825月分	勤続25年	29.145月分	34.5825月分
勤続35年	41.325月分	49.59月分	勤続35年	41.325月分	49.59月分
最高限度額	49.59月分	49.59月分	最高限度額	49.59月分	49.59月分
その他の加算措置			その他の加算措置		
定年前早期退職特例措置（2%～20%加算） （退職時特別昇給 無）			定年前早期退職特例措置（2%～45%加算）		
1人当たり平均支給額	4,562千円	23,502千円			

（注）退職手当の1人当たり平均支給額は、前年度に退職した職員に支給された平均額である。

(14) 地域手当（平成28年4月1日現在）

支給実績（27年度決算）		6,363,275千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（27年度決算）		157,000円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	国の制度（支給率）
静岡市	3.6%	9,840人	6%
浜松市	3.6%	6,880人	3%
沼津市	3.6%	2,348人	6%
熱海市	3.6%	376人	0%
三島市	3.6%	835人	3%
富士宮市	3.6%	1,065人	3%
伊東市	3.6%	489人	0%
島田市	3.6%	939人	0%
富士市	3.6%	2,105人	3%
磐田市	3.6%	1,690人	6%
焼津市	3.6%	1,032人	3%
掛川市	3.6%	1,220人	3%
藤枝市	3.6%	1,661人	3%
御殿場市	3.6%	777人	6%
袋井市	3.6%	869人	3%
下田市	3.6%	509人	0%
裾野市	3.6%	424人	15%
湖西市	3.6%	543人	0%
伊豆市	3.6%	292人	0%
御前崎市	3.6%	241人	0%
菊川市	3.6%	452人	0%
伊豆の国市	3.6%	594人	0%

牧之原市	3.6%	459人	0%
東伊豆町	3.6%	122人	0%
河津町	3.6%	58人	0%
南伊豆町	3.6%	63人	0%
松崎町	3.6%	105人	0%
西伊豆町	3.6%	66人	0%
函南町	3.6%	248人	0%
清水町	3.6%	231人	0%
長泉町	3.6%	224人	0%
小山町	3.6%	162人	0%
吉田町	3.6%	228人	0%
川根本町	3.6%	98人	0%
森町	3.6%	208人	0%
埼玉県さいたま市	14%	1人	15%
東京都特別区	18.5%	43人	20%
東京都府中市	14%	1人	15%
東京都小平市	15%	3人	16%
神奈川県川崎市	15%	2人	16%
山梨県甲府市	6%	1人	6%
愛知県名古屋市	14%	2人	15%
京都府京都市	10%	1人	10%
大阪府大阪市	15.5%	3人	16%
医療職給料表(1)の 適用を受ける職員	15.5%	29人	16%
平均支給率	3.60%	—	3.77%
H27.4.1地域手当補正後ラスパイレス指数 (H27.4.1ラスパイレス指数)			101.6 (102.7)

(注1) 「国の制度(支給率)」の欄の平均支給率は、支給対象職員に対し国の率で支給したと仮定した場合の加重平均の支給率である。

(注2) 地域手当補正後ラスパイレス指数とは、地域手当を加味した地域における国家公務員と地方公務員の給与水準を比較するため、地域手当の支給率を用いて補正したラスパイレス指数。

(補正前のラスパイレス指数×(1+当該団体の地域手当支給率) / (1+国の指定基準に基づく地域手当支給率) により算出。)

(15) 特殊勤務手当(平成28年4月1日現在)

支給実績(27年度決算)	2,308,759千円
支給職員1人当たり平均支給年額(27年度決算)	93,900円
職員全体に占める手当支給職員の割合(27年度)	44.4%
手当の種類(手当数)	39

手当名	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する 支給単価	支給職員数 (実人数)	支給 実績
税務手当	本庁又は財務事務所 に勤務する職員	県税の賦課又は徴収に 関する業務	本庁勤務職員は日額 650円 財務事務所勤務職員は 月額6,500円～13,600円	456人	65,951千円
		県税に関する滞納処分 又は犯則事件の取締り の業務	日額 310 円	119人	652 千円
航空手当	回転翼航空機に搭 乗し、右の業務に従 事した職員	捜索救難の業務 災害発生状況等の調査 の業務 上記の業務に係る教育 訓練の業務	1時間につき1,900円 (低空飛行海上捜索、ホ バリングつり上げ救助 等30%加算) (飛行中降下430円又は 870円加算)		
社会福祉業 務手当	健康福祉センター その他人事委員会 規則で定める機関 に勤務する職員	社会福祉に関する指導 、保護等の業務	人事委員会規則で定め る職員は月額4,100円 ～9,400円 その他の職員は日額 310円	151人	15,301千円
臨床等業務 手当	本庁、保健所、発達 障害者支援センタ ー又は精神保健福 祉センターに勤務 する医師、歯科医師 、診療放射線技師又 は診療エックス線 技師である職員	診療、検診又は保健指 導の業務	日額310円～2,190円	18人	6,627千円
防疫等作業 手当	右の業務に従事し た職員	感染症の患者若しくは 感染症の疑いのある患 者の予防救治又は感染 症の病原体に汚染され た物件若しくは汚染さ れた疑いのある物件の 処理業務	日額360円	32人	46千円

	家畜保健衛生所に勤務する職員のうち給料の調整額が支給されている職員以外の職員で右の業務に従事した職員	家畜の伝染病が発生し、又は発生するおそれのある場合における、伝染病菌を有し、又は有する疑いのある家畜に対する防疫業務	日額310円～720円	3人	21千円
放射線作業手当	右の業務に従事した職員	エックス線の照射及び撮影、有害放射線の照射及び測定又は放射性同位元素を使用する業務	日額360円	7人	12千円
有害薬品等取扱手当	人事委員会規則で定める機関に勤務する職員	身体に有害なガスの発生を伴う業務、特に危険性を有する薬品等を取り扱う業務又は病理細菌を取り扱う業務	日額310円	119人	2,321千円
		麻薬取締員として行う麻薬に関する取締り等の業務	日額1,500円	4人	25千円
精神保健業務手当	本庁、保健所又は精神保健福祉センターに勤務する職員	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第27条第1項若しくは第2項の規定に基づく診察若しくは調査、同条第3項の規定に基づく診察の立会い、同法第29条第1項の規定に基づき精神障害者を入院させるための護送又は同法第47条第1項の規定に基づく精神障害者からの相談又は精神障害者の指導の業務	日額450円	70人	599千円
動物管理等作業手当	右の業務に従事した職員	狂犬病予防法第5条第1項若しくは第6条第1項若しくは第2項に規定する作業、抑留犬の管理に関する作業、捕獲犬若しくは処分犬の輸送の作業又は動物	日額450円	35人	190千円

		の愛護及び管理に関する法律第35条第1項に規定する犬の引取りに関する業務			
		鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律第9条第1項に規定する鳥獣の捕獲等に関する作業で人事委員会規則で定める業務			
	動物管理指導センターに勤務する職員	動物の収容、管理又は処分に関する業務			
廃棄物処理施設等立入検査業務手当	本庁又は健康福祉センターに勤務する職員	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第19条第1項又は静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例第31条第1項に規定する立入検査の業務（市町村等公共団体の管理するごみ処理施設への立入検査を除く。）	日額360円	45人	320千円
職業訓練等手当	職業能力開発施設に勤務し、実習を伴う職業訓練の科目を担当する職員	職業訓練の業務	1月につき給料月額に7/100を乗じて得た額	84人	17,750千円
	農林大学校又は漁業高等学園に勤務し、農業又は漁業に関する実習教育を担当する職員	実習教育の業務			
	人事委員会規則で定める機関に勤務する職員	講師の業務	1時間につき200円（上限1月につき18,000円）	86人	1,303千円
家畜交配作業手当	畜産技術研究所に勤務する職員	種雄牛豚の自然交配若しくは精液の採取又はこれらの作業の準備のために種雄牛豚を御する業務	日額310円	5人	134千円

		人工授精又は受精卵移植をするために放牧してある牛を取り押さえる業務			
危険現場作業手当	右の業務に従事した職員	潜水器具を着用して行う潜水の業務	1時間につき540円～1,500円	3人	168千円
		圧搾空気内で行う監督、測量等の業務	1時間につき420円		
		地上又は水面上10メートル以上の足場の不安定な箇所で行う監督、測量等の業務	日額310円又は360円	13人	13千円
		管渠内、掘削中のトンネルの坑内又は掘削中のたて坑で人事委員会規則で定めるものの坑内で行う監督、測量等の業務（圧搾空気内で行う監督、測量等の業務を除く。）	日額450円	7人	14千円
		火薬類又は高圧ガスの製造施設の災害調査の業務	日額750円		
		車両の通行を遮断することなく道路上で行う道路工事に係る監督、検査、調査又は測量の業務	日額310円	16人	27千円
応急防災等作業手当	右の業務に従事した職員	人事委員会規則で定める作業環境を劣悪にする異常な気象状態の下で、道路交通の安全の確保のために行う道路の巡視その他人事委員会規則で定める業務	日額710円又は1,080円	2人	1千円

		市町村長が災害対策本部を設置した場合において、当該市町村の地域で重大な災害が発生した危険な箇所又は発生するおそれの著しい危険な箇所で、人事委員会規則で定める期間内に行う災害状況の調査、巡回監視又は応急的な工事の監督、測量等の業務			
用地交渉等 手当	人事委員会規則で定める機関に勤務する職員	現地における公共の用に供する土地の取得若しくは取得に伴う物件の移転の交渉又は公共事業の施行により生ずる損失の補償に係る交渉の業務	日額1,000円又は1,500円	156人	1,776千円
夜間定時制 課程勤務手 当	高等学校における夜間の定時制課程の勤務を本務とする職員	教育委員会が別に定める時間以上の当該定時制課程に係る業務	日額230円		
多学年学級 担当手当	小学校又は中学校の2以上の学年の児童又は生徒で編制されている学級を担当する教育職員（給料の調整額表の適用を受ける職員及び管理職手当の支給の適用を受ける職員は除く。）	教育委員会が別に定める時間数以上の当該学級における授業又は指導の業務	日額290円又は350円	45人	2,827千円
兼務手当	昼間授業又はその補助を本務とする教育職員若しくは夜間授業又はその補助を本務とする教育職員	昼夜の異なる課程の授業の業務又はその補助業務	1時間につき2,000円	25人	4,108千円

	本務として勤務する学校において教育委員会が別に定める授業時間数以上の授業を担当する教育職員	他の学校における授業の業務			
特殊業務手当	小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭、講師、実習助手又は寄宿舎指導員のうち、高等学校等教育職給料表又は中学校小学校教育職給料表の特2級、2級又は1級である教育職員	学校管理下において行う非常災害時における児童若しくは生徒の保護又は緊急の防災若しくは復旧の業務	日額8,000円 (4時間以上7時間45分未満4,000円) ※被害が特に甚大な場合は日額16,000円 (4時間以上7時間45分未満8,000円)		
		学校管理下において行う児童又は生徒の負傷、疾病等に伴う救急の業務	日額7,500円 (4時間以上7時間45分未満3,750円)	4人	154千円
		学校管理下において行う児童又は生徒に対する緊急の補導業務	日額7,500円 (4時間以上7時間45分未満3,750円、2時間以上4時間未満1,875円)	24人	86千円
		修学旅行、林間・臨海学校等において児童又は生徒を引率して行う指導業務で、泊を伴うもの又は週休日若しくはこれに相当する日に行うもの	日額4,250円 (4時間以上7時間45分未満2,125円)	11,038人	138,076千円
		週休日等に行う人事委員会が定める対外運動競技等において児童又は生徒を引率して行う指導業務	日額4,250円 (4時間以上7時間45分未満3,000円)	7,420人	134,822千円
		週休日等に行う学校管理下において行われる児童又は生徒に対する部活動指導業務	日額3,200円 (4時間程度以上7時間45分未満3,000円)	9,269人	1,076,099千円
		入学試験における受験生の監督、採点又は合否判定の業務	日額900円 (4時間以上7時間45分未満450円)		

教育業務連絡指導手当	小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の教諭、養護教諭又は栄養教諭のうち規則で定める主任等である教育職員	教務主任、学年主任、生徒指導主事等の業務	日額200円	6,137人	275,874千円
警備艇運転整備手当	右の業務に従事した職員	警備艇の運転及び整備作業	日額200円	8人	89千円
看守護送手当	警部補以下の階級にある警察官	留置施設における看守の業務又は被疑者その他拘禁されている者の護送	日額310円	2,755人	19,871千円
死体処理手当	職員（警察官以外の職員にあつては、鑑識作業に従事する者に限る。）	死因鑑定のために行う死体解剖の立会い作業、死体解剖の補助作業又は死体の検視、見分等の作業	1体につき1,600円～3,200円	2,194人	49,382千円
鑑識作業手当	職員（警察官にあつては、警部以下の階級にある警察官に限る。）	指掌紋、手口、写真又は足跡について専門的知識を利用する犯罪鑑識作業	日額310円（犯罪現場において作業する場合560円）	182人	7,722千円
		文書、理化学、法医学又は銃器弾薬類について科学的専門知識を利用する犯罪鑑識作業	日額560円	24人	1,812千円
航空手当	右の業務に従事した職員	回転翼航空機を操縦し、又は航空機に搭乗して行う犯罪捜査、交通規制、捜索救難等若しくは整備の業務	1時間につき1,900円～5,100円 （低空飛行海上捜索、ホバリングつり上げ救助等30%加算） （飛行中降下430円～870円加算）	67人	9,136千円
		航空機に搭乗しての犯罪捜査等の教育訓練の業務	日額1,060円	7人	1,619千円
山岳遭難者救助等手当	山岳遭難救助隊員に指定された職員	山岳遭難者の救助作業、救助訓練又は山岳の巡視作業	日額840円～1,680円	48人	954千円

潜水手当	右の業務に従事した職員	潜水器具を着用して行う潜水作業	1時間につき540円～1,500円	22人	227千円
交通事故実況見分手当	警察官	高速自動車国道における交通事故の実況見分又は一般国道1号等の道路における夜間の交通事故の実況見分の作業	1件につき450円	667人	2,985千円
運転免許技能試験手当	運転免許技能試験官	道路上において行う自動車運転免許技能試験の業務	日額240円	17人	196千円
爆発物処理作業等手当	爆発物処理班員に指定された職員	爆発物（爆発物である疑いがある物件を含む）の処理の作業	1件につき5,200円	3人	26千円
		特殊危険物質又は特殊危険物質である疑いがある物質の処理作業	日額4,600円		
	右の業務に従事した職員	特殊危険物質被害危険区域内における作業	日額250円		
		特殊危険物質製造過程の解明等実験で特殊危険物質発生のおそれがあるもの	日額460円		
私服作業等手当	私服員（警部以下の階級にある警察官に限る。）	犯罪の予防若しくは捜査又は被疑者の逮捕の業務	日額560円	2,877人	100,425千円
		天皇、皇族等の身の護衛の作業	日額640円～1,150円	39人	139千円
		国外における犯罪の捜査に関する情報収集の作業	日額1,100円		
	少年警察補導員	少年の非行防止のための街頭補導、少年相談等の業務	日額240円	30人	261千円
警ら手当	警部以下の階級にある警察官	警ら用自動車に乗務して行う広域的な警ら業務	日額560円	83人	4,718千円
	警部補以下の階級にある警察官	警ら用自動車に乗務して行う警ら業務	日額420円	1,466人	41,260千円
		警ら業務	日額340円	2,269人	87,840千円

交通整理取締手当	警部以下の階級にある警察官	交通整理取締用の自動二輪車又は自動車に乗務して行う広域的な交通整理取締り業務	日額560円	231人	14,179千円
	警部以下の警察官	交通整理取締り業務	日額340円	891人	4,918千円
	交通巡視員		日額290円	50人	1,132千円
夜間特殊業務手当	職員（警察官にあっては、警部以下の階級にある警察官に限る。）	正規の勤務時間による勤務の一部又は全部が深夜において行われる業務	1回につき410円～1,100円	4,393人	199,434千円
呼出手当	職員（警察官にあっては、警部以下の階級にある警察官に限る。）	正規の勤務時間外における呼出命令により、夜間において緊急に行う犯罪の予防若しくは捜査、被疑者の逮捕、交通取締り、犯罪鑑識又は爆発物の処理の作業	1回につき1,240円	751人	1,556千円
災害応急作業等手当	右の業務に従事した職員	異常な自然現象又は大規模な事故により重大な災害が発生した箇所又はその周辺において行う災害警備、遭難救助、鑑識作業又はこれらに相当する作業	日額660円～40,000円	143人	11,872千円
核物質輸送警備手当	警部以下の階級にある警察官	核物質を輸送する車両を先導し、又はこれに追従して行う核物質の輸送の警備の業務	日額640円		
銃器犯罪捜査手当	警察官	防弾装備を着装し、小型武器を携帯して行う銃器又は銃器と思われるものを使用している犯罪現場における犯人の逮捕等の作業	日額1,640円		
		防弾装備を着装し、小型武器を携帯して行う銃器を所持する犯人の逮捕の作業	日額1,100円		

		防弾装備を着装し、小型武器を携帯して行う上記の2つの作業に付随して行われる固定配置の作業	日額820円～1,100円		
		防弾装備を着装し、小型武器を携帯して行う銃器が使用された暴力団の対立抗争事件に伴う暴力団事務所等に対する張付け警戒の作業	日額820円		
		防弾装備を着装し、小型武器を携帯して行う暴力団員及び暴力団員と密接な関係を有するものから危害を受けるおそれのある者に対する危害を未然に防止するために行う保護対策の作業のうち、身辺警戒及び固定警戒の作業	日額820円		
遠隔地水上警戒作業手当	警察官	警察官が、海上保安庁の船舶に乗り込んで行う遠隔の地にある離島の周辺の海域における警戒の作業	日額1,100円		

(注) 手当別の支給職員数及び支給実績は、支給後の追給、返納分を含まない。

(16) 時間外勤務手当

支給実績 (27年度決算)	6,728,875千円
職員1人当たり平均支給年額 (27年度決算)	496千円
支給実績 (26年度決算)	6,654,527千円
職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)	491千円

(注) 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績(○年度決算)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数(管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。)であり、短時間勤務職員を含む。

(17) その他の手当(平成28年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (27年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (27年度決算)
扶養手当	<p>扶養親族のある職員に支給する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○配偶者 13,000円 ○扶養親族たる子 6,800円 ・配偶者がいない場合そのうち1人 11,300円 ・満16歳に達する年度の初めから満22歳の年度末までの子1人につき5,300円加算 ○配偶者及び子以外の扶養親族 6,500円 ・配偶者がいない場合そのうち1人 11,000円 	異なる	<ul style="list-style-type: none"> ○扶養親族たる子 6,500円 ・配偶者がいない場合そのうち1人 11,000円 ・満16歳に達する年度の初めから満22歳の年度末までの子1人につき5,000円加算 	3,975,850 千円	236,800 円
住居手当	<ul style="list-style-type: none"> ○借家・借間に居住する場合 ・支給対象者 自ら居住するため借り受け月額12,000円を超える家賃・間代を支払っている職員 ・全額支給限度額 13,000円 ・2分の1加算限度額 17,000円 ・最高支給限度額 30,000円 ○単身赴任中の留守宅の場合 ・支給対象者 単身赴任手当を受給している者で配偶者等が居住するため借り受け月額12,000円を超える家賃・間代を支払っている職員 ・借家・借間に居住する場合の2分の1の額 	異なる	<ul style="list-style-type: none"> ○借家・借間に居住する場合 ・全額支給限度額 11,000円 ・2分の1加算限度額 16,000円 ・最高支給限度額 27,000円 	2,505,687 千円	302,700 円
通勤手当	<p>通勤のため交通機関等を利用してその運賃等を負担することや自動車等を使用することを常例とする職員に支給する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1か月当たり最高支給限度額 75,000円 	異なる	<p>国は最高支給限度額が55,000円 自動車等使用者の使用距離の額及び区分が異なる</p>	4,816,039 千円	133,100 円

	<ul style="list-style-type: none"> 交通用具使用者の算出方法 距離に応じた基準額（2,000円～5,800円）＋加算額（3kmを超える1kmにつき175円～570円） 				
管理職手当	<p>管理又は監督の地位にある職員のうち、管理職手当に関する規則で指定する職を占める職員に対し支給する。</p> <p>月額：給料表、職務の級、職の区分に応じ定める額</p>	異なる	一部国と異なる区分あり	2,132,187 千円	741,900 円
休日勤務手当	<p>勤務時間条例に規定する休日において定められた正規の勤務時間中に勤務を命ぜられた職員に支給する。</p> <p>1時間当たりの支給額：勤務1時間当たりの給与額×135/100</p>	同じ		1,119,281 千円	162,600 円
産業教育手当	<p>実習を伴う農業、水産、工業、電波又は商船に関する科目を主として担任する教育職員に支給する。</p> <p>月額：給料月額×5/100（定時制通信教育手当の支給を受ける者については、3/100）</p>			142,748 千円	215,600 円
初任給調整手当	<p>医学、科学技術その他の専門的知識を必要とし、かつ、採用困難あるいは採用に特別の事情があると認められる職員に支給する。</p> <p>月額：17,100円～413,300円</p>	同じ		55,137 千円	2,901,900 円
単身赴任手当	<p>公署を異にする異動等に伴い転居し配偶者と別居し、単身で生活することを常況とする職員に支給する。</p> <p>月額：26,000円＋交通距離の区分に応じた加算額</p>	異なる	交通距離 100km以上 300km未満の区分を細分化、50kmごとに加算額を規定	115,568 千円	330,200 円

特勤勤務手当	生活の著しく不便な地に所在する特勤公署に勤務する職員に支給する。 月額：（給料の月額＋扶養手当）×4/100～25/100	同じ		7,263 千円	134,500 円
へき地手当	山間地、離島その他の地域に所在する小学校等に勤務する職員に支給する。 月額：（給料の月額＋扶養手当）×4/100～25/100			78,428 千円	233,400 円
定時制通信教育手当	定時制の課程又は通信制の課程をおく高等学校の校長及び教員に支給する。 月額：給料月額×4～6/100（管理職手当を受ける職員は4/100）			91,382 千円	224,000 円
義務教育等教員特別手当	小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校に勤務する教育職員に支給する。 月額：2,000円～8,000円			1,644,348 千円	64,000 円
農林漁業普及指導手当	農林漁業の普及指導等に従事する職員に支給する。 月額：給料月額の6/100			35,173 千円	254,900 円
宿日直手当	宿日直勤務を命ぜられた職員に支給する。 1 回当たり：4,200円～7,200円	同じ		884,145 千円	214,100 円
管理職員特別勤務手当	管理職手当の支給を受ける職員が、①臨時又は緊急の必要その他の公務の運営の必要により週休日又は休日に勤務した場合、②災害への対処等の臨時・緊急の必要によりやむを得ず平日深夜（午前0時から午前5時までの間）に勤務した場合、のいずれかに該当する場合に支給する。 1 回当たり：上記①の場合3,000円～12,000円（ただし、6 時間を超える場合の勤務にあつては、100分の150を乗じて得た額）、上記②の場合1,500円～6,000円	異なる	国は、週休日に勤務した場合 1 回当たり 6,000 円～12,000 円、平日深夜に勤務した場合 1 回当たり 3,000 円～6,000 円	45,672 千円	102,900 円

<p>夜間勤務手当</p>	<p>正規の勤務時間として午後10時～翌日の午前5時までの間に勤務した職員に支給する。 1時間当たりの支給額：勤務1時間当たりの給与額×25/100</p>	<p>同じ</p>		<p>498,497 千円</p>	<p>111,300 円</p>
<p>寒冷地手当</p>	<p>寒冷公署に在勤し人事委員会規則で定める地域に居住する職員に支給する。 基準日（10月31日）に11月から翌年3月まで5月分を一括支給する。 支給額：36,800円～89,000円</p>	<p>異なる</p>	<p>国は、11月から翌年3月までの各月の初日に支給している。</p>	<p>- 千円</p>	<p>- 円</p>

(18) 旅費（平成28年4月1日現在）

支給実績（27年度決算）	2,231,422千円
職員1人当たり平均支給年額	55,699円

（注） 職員1人当たり平均支給年額は、支給実績（27年度決算）から、外部講師等が旅行した場合に支給された旅費額を除き、平成27年4月1日現在の職員数（公営企業職員を除き、常勤の特別職職員及び臨時講師を含む。）で除した額である。

ア 内国旅行

種 類	支給額及び支給要件	
鉄道賃	運 賃	乗車に要する運賃
	急行料金	急行列車を利用する場合の料金 ただし、次に該当する場合に限る。 ・特別急行列車を運行する線路による旅行で片道70km以上である場合 ・新幹線で片道70km未満50km以上の区間で、公務上特に緊急な必要がある場合 ・普通急行列車を運行する線路による旅行で片道50km以上である場合
	座席指定料金	指定席を利用する場合の料金 ただし、急行列車を運行する線路による旅行で片道100km以上である場合に限る。
航空賃	実費額	
車賃	バス代	実費額
	タクシー代	実費額 ただし、公用車を利用できない旅行で、タクシーを利用して旅行することを承認された場合に限る。
	自家用自動車の公務使用	実走行距離1km当たり18円 ただし、自家用自動車の公務使用を承認された場合に限る。
旅行諸費	一日につき県内200円、県外800円 ただし、勤務公署から4km以内の地域は支給しない。	
宿泊料	一夜につき11,800円 なお、指定された宿泊施設を利用したため規定の宿泊料を支給することが適当でない場合や長期研修の場合等については、実費額を支給	

イ 外国旅行

種 類	支給額及び支給要件	
鉄道賃	運 賃	乗車に要する運賃
	急行料金 寝台料金	公務上の必要により急行料金又は寝台料金を必要とした場合は、その料金
航空賃	実費額	
車賃	バス代	実費額
	タクシー代	実費額 ただし、タクシーを利用して旅行することを承認された場合に限る。

日 当	旅行地の区分に応じた定額 一日につき3,500円～7,200円
宿 泊 料	旅行地の区分に応じた定額 一夜につき10,700円～22,500円 なお、指定された宿泊施設を利用したため規定の宿泊料を支給することが適当でない場合等については、実費額を支給

(19) 特別職の報酬等の状況（平成28年4月1日現在）

区 分		給料月額等
給料	知 事	1,301,000円
	副 知 事	1,063,000円
議員報酬	議 長	1,023,000円
	副 議 長	904,000円
	議 員	834,000円
期 末 手 当	知 事	(28年度支給割合) 3.15月分
	副 知 事	3.15月分
退 職 手 当	議 長	(28年度支給割合) 3.15月分
	副 議 長	3.15月分
	議 員	3.15月分
退 職 手 当	知 事	(算定方式) (1期の手当額) (支給時期)
	副 知 事	130.1万円×在職期間×65/100 4,059.1万円 任期毎
	備 考	106.3万円×在職期間×40/100 2,041.0万円 任期毎

(注) 退職手当の「1期の手当額」は、上欄の給料月額及び支給率に基づき、1期（4年＝48月）勤めた場合における退職手当の見込額である。

(20) 公営企業職員の状況

① 工業用水道事業

ア 職員給与費の状況

決算

区分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 26年度の総費用に占 める職員給与費比率
	千円	千円	千円	%	%
27年度	4,023,922	290,245	558,774	13.9	12.9

(注) 本事業において資本勘定支弁職員に係る職員給与費は発生していない。

区分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費B/A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
	人	千円	千円	千円	千円	千円
27年度	54	240,147	70,127	99,212	409,486	7,583

(注1) 職員手当には退職給与金を含まない。

(注2) 職員数は、平成28年3月31日現在の人数である。

イ 職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況 (平成28年4月1日現在)

区 分	平均年齢	基本給	平均月収額
静 岡 県	46.3歳	387,130円	608,881円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

ウ 職員の手当の状況

(ア) 期末手当・勤勉手当

工業用水道事業	静岡県 (企業局・がんセンター事業を除く)
1人当たり平均支給額 (27年度) 1,266千円	1人当たり平均支給額 (27年度) 1,606千円
(27年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 (1.45)月分 勤勉手当 1.60 月分 (0.75)月分	(27年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 (1.45)月分 勤勉手当 1.60 月分 (0.75)月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5~20% ・管理職加算 20~25%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5~20% ・管理職加算 20~25%

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

(イ) 退職手当（平成28年4月1日現在）

工業用水道事業			静岡県（企業局・がんセンター事業を除く）		
（支給率）	自己都合	勸奨・定年	（支給率）	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	20.445月分	25.55625月分	勤続20年	20.445月分	25.55625月分
勤続25年	29.145月分	34.5825月分	勤続25年	29.145月分	34.5825月分
勤続35年	41.325月分	49.59月分	勤続35年	41.325月分	49.59月分
最高限度額	49.59月分	49.59月分	最高限度額	49.59月分	49.59月分
その他の加算措置			その他の加算措置		
定年前早期退職特例措置（2%～20%加算）			定年前早期退職特例措置（2%～20%加算）		
（退職時特別昇給 無）			（退職時特別昇給 無）		
1人当たり平均支給額	— 千円	— 千円	1人当たり平均支給額	4,562千円	23,502千円

（注）工業用水道事業の1人当たり平均支給額は、公営企業職員（がんセンターを除く）の平成27年度及び平成26年度の支給者が3名以下のため記載なし。

(ウ) 地域手当（平成28年4月1日現在）

支給実績（27年度決算）		9,398千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（27年度決算）		167,800円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度（支給率）
静岡市	3.6%	19人	3.6%
浜松市	3.6%	10人	3.6%
三島市	3.6%	2人	3.6%
富士市	3.6%	24人	3.6%

(エ) 特殊勤務手当（平成28年4月1日現在）

支給実績（27年度決算）		53千円			
支給職員1人当たり平均支給年額（27年度決算）		5,300円			
職員全体に占める手当支給職員の割合（27年度）		13.0%			
手当の種類（手当数）		5			
手当名	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価	支給職員数（実人数）	年間支給額
危険現場作業手当	右の業務（管路内作業）に従事した職員	管路内又はトンネル内において行う管の接合箇所 の検査若しくは管内の監視 又はトンネル内の監視の業務	日額450円	1人	1千円
	右の業務（高所作業）に従事した職員	地上又は水面上10メートル以上の足場の不安定な 箇所での監督、測量等の業務	日額310円～360円	1人	1千円

	右の業務（道路上作業）に従事した職員	道路上において、車両の通行を遮断することなく行う工事の監督、検査又は測量の業務	日額310円	5人	19千円
		道路上において行う、導水管等の弁の操作、点検若しくは修繕の作業又はこれらの作業に伴う交通整理の業務	日額360円		
特殊構造物内作業手当	右の業務に従事した職員	浄配水場等において行う各槽池等における漏水検査、汚泥堆積状況調査、除じん作業又は排泥作業及び各種機械の点検整備等の業務	日額310円	6人	16千円
有害薬品取扱手当	右の業務に従事した職員	特に危険性を有する薬品等を取り扱う業務	日額310円	1人	17千円
用地交渉等手当	事業課、企業局東部事務所又は企業局西部事務所に勤務する職員のうち右の業務に従事した職員	現地において行う地域振興整備事業に係る土地若しくは公共の用に供する土地の取得若しくは取得に伴う物件の移転の交渉又は公共事業の施行により生ずる損失の補償に係る交渉の業務	日額 1,000円 ~ 1,500円		
災害状況調査手当	右の業務に従事した職員	市町村長が災害対策本部を設置した場合において、当該市町村の地域で、災害対策本部が設置されている期間中に、重大な災害が発生した危険な箇所又は発生するおそれの著しい危険な箇所において行う災害状況の調査又は巡回監視の業務	日額710円		

(注) 手当別の支給職員数及び年間支給額は、支給後の追給、返納分を含まない。

(カ) 時間外勤務手当

支給実績（27年度決算）	32,665千円
職員1人当たり平均支給年額（27年度決算）	653千円
支給実績（26年度決算）	42,847千円
職員1人当たり平均支給年額（26年度決算）	808千円

(注1) 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

(注2) 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績（〇年度決算）」と同じ年度の4月1日現在の総職員数（管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。）であり、短時間勤務職員を含む。

(カ) その他の手当（平成28年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	一般行政職 の制度との 異同	一般行政職 の制度と異 なる内容	支給実績 (27年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (27年度決算)
扶養手 当	扶養親族のある職員に支給する。 ○配偶者 13,000円 ○扶養親族たる子 6,800円 ・配偶者がいない場合そのう ち1人 11,300円 ・満16歳に達する年度の初め から満22歳の年度末までの子 1人につき5,300円加算 ○配偶者及び子以外の扶養親 族 6,500円 ・配偶者がいない場合そのう ち1人 11,000円	同じ		8,954千円	279,800円
住居手 当	○借家・借間に居住する場合 ・支給対象者 自ら居住するため借り受け 月額12,000円を超える家賃 ・間代を支払っている職員 ・全額支給限度額 13,000円 ・2分の1加算限度額 17,000円 ・最高支給限度額 30,000円 ○単身赴任中の留守宅の場合 ・支給対象者 単身赴任手当を受給してい る者で配偶者等が居住す るため借り受け月額12,000円 を超える家賃・間代を支払 っている職員 ・借家・借間に居住する場合 の2分の1の額	同じ		3,101千円	344,600円
通勤手 当	通勤のため交通機関等や自動 車等を使用することを常例と する職員に支給する。 交通機関等利用者の1か月当 たり最高支給限度額75,000円 交通用具使用者の算出方法 距離に応じた基準額（2,000円 ～5,800円）+加算額（3kmを 超える1kmにつき175円～570 円）	同じ		11,237千円	220,300円
管理職 手当	管理又は監督の地位にある職 員のうち、管理職手当規則で 指定する職を占める職員に対 し支給する。 月額：給料表、職務の級、職 の区分に応じ定める額	同じ		5,627千円	1,125,400円

休日勤務手当	勤務時間条例に規定する休日において定められた正規の勤務時間中に勤務を命ぜられた職員に支給する。 1時間当たりの支給額：勤務1時間当たりの給与額×135/100	同じ		314千円	15,700円
初任給調整手当	医学、科学技術その他の専門的知識を必要とし、かつ、採用困難あるいは採用に特別の事情があると認められる職員に支給する。 月額：17,100円～413,300円	同じ			
単身赴任手当	公署を異にする異動等に伴い転居し配偶者と別居し、単身で生活することを常況とする職員に支給する。 月額：月額26,000円＋交通距離の区分に応じた加算額	同じ			
夜間勤務手当	正規の勤務時間として午後10時～翌日の午前5時までの間に勤務した職員に支給する。 1時間当たりの支給額：勤務1時間当たりの給与額×25/100	同じ			
宿日直手当	宿日直勤務を命ぜられた職員に支給する。 1回当たり：4,200円～7,200円	同じ			
管理職員特別勤務手当	管理職手当の支給を受ける職員が、①臨時又は緊急の必要その他の公務の運営の必要により週休日又は休日に勤務した場合、②災害への対処等の臨時・緊急の必要によりやむを得ず平日深夜（午前0時から午前5時までの間）に勤務した場合、のいずれかに該当する場合に支給する。 1回当たり：上記①の場合3,000円～12,000円（ただし、6時間を超える場合の勤務にあつては、100分の150を乗じて得た額）、上記②の場合1,500円～6,000円	同じ		12千円	12,000円

② 水道事業

ア 職員給与費の状況

決算

区分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 26年度の総費用に占 める職員給与費比率
	千円	千円	千円	%	%
27年度	5,502,076	1,058,699	585,552	10.6	9.5

(注) 本事業において資本勘定支弁職員に係る職員給与費は発生していない。

区分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費B/A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
	人	千円	千円	千円	千円	千円
27年度	54	247,915	70,014	103,333	421,262	7,801

(注1) 職員手当には退職給与金を含まない。

(注2) 職員数は、平成28年3月31日現在の人数である。

イ 職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況（平成28年4月1日現在）

区分	平均年齢	基本給	平均月収額
静岡県	46.6歳	401,820円	649,712円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

ウ 職員の手当の状況

(7) 期末手当・勤勉手当

水道事業	静岡県（企業局・がんセンター事業を除く）
1人当たり平均支給額（27年度） 1,306千円	1人当たり平均支給額（27年度） 1,606千円
(27年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 勤勉手当 1.60 月分 (1.45)月分 (0.75)月分	(27年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 勤勉手当 1.60 月分 (1.45)月分 (0.75)月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 20～25%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 20～25%

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

(イ) 退職手当（平成28年4月1日現在）

水道事業			静岡県（企業局・がんセンター事業を除く）		
（支給率）	自己都合	勸奨・定年	（支給率）	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	20.445月分	25.55625月分	勤続20年	20.445月分	25.55625月分
勤続25年	29.145月分	34.5825月分	勤続25年	29.145月分	34.5825月分
勤続35年	41.325月分	49.59月分	勤続35年	41.325月分	49.59月分
最高限度額	49.59月分	49.59月分	最高限度額	49.59月分	49.59月分
その他の加算措置			その他の加算措置		
定年前早期退職特例措置（2%～20%加算）			定年前早期退職特例措置（2%～20%加算）		
（退職時特別昇給 無）			（退職時特別昇給 無）		
1人当たり平均支給額	— 千円	— 千円	1人当たり平均支給額	4,562千円	23,502千円

（注）水道事業の1人当たり平均支給額は、公営企業職員（がんセンターを除く）の平成27年度及び平成26年度の支給者が3名以下のため記載なし。

(ウ) 地域手当（平成28年4月1日現在）

支給実績（27年度決算）			9,486千円
支給職員1人当たり平均支給年額（27年度決算）			172,500円
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度（支給率）
静岡市	3.6%	14人	3.6%
浜松市	3.6%	31人	3.6%
三島市	3.6%	7人	3.6%
富士市	3.6%	1人	3.6%
吉田町	3.6%	3人	3.6%

(エ) 特殊勤務手当（平成28年4月1日現在）

支給実績（27年度決算）		45千円			
支給職員1人当たり平均支給年額（27年度決算）		3,000円			
職員全体に占める手当支給職員の割合（27年度）		16.4%			
手当の種類（手当数）		5			
手当名	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価	支給職員数（実人数）	年間支給額
危険現場作業手当	右の業務（管路内作業）に従事した職員	管路内又はトンネル内において行う管の接合箇所を検査若しくは管内の監視又はトンネル内の監視の業務	日額450円		
	右の業務（高所作業）に従事した職員	地上又は水面上10メートル以上の足場の不安定な箇所での監督、測量等の業務	日額310円～360円		
	右の業務（道路上作業）に従事した職員	道路上において、車両の通行を遮断することなく行う工事の監督、検査又は測量の業務	日額310円	2人	2千円

		道路上において行う導水管等の弁の操作、点検若しくは修繕の作業又はこれらの作業に伴う交通整理の業務	日額360円		
特殊構造物内作業手当	右の業務に従事した職員	浄配水場等において行う各槽池等における漏水検査、汚泥堆積状況調査、除じん作業又は排泥作業及び各種機械の点検整備等の業務	日額310円	10人	20千円
有害薬品取扱手当	右の業務に従事した職員	特に危険性を有する薬品等を取り扱う業務	日額310円	4人	24千円
用地交渉等手当	事業課、企業局東部事務所又は企業局西部事務所に勤務する職員のうち右の業務に従事した職員	現地において行う地域振興整備事業に係る土地若しくは公共の用に供する土地の取得若しくは取得に伴う物件の移転の交渉又は公共事業の施行により生ずる損失の補償に係る交渉の業務	日額1,000円～1,500円		
災害状況調査手当	右の業務に従事した職員	市町村長が災害対策本部を設置した場合において、当該市町村の地域で災害対策本部が設置されている期間中に、重大な災害が発生した危険な箇所又は発生するおそれの著しい危険な箇所において行う災害状況の調査又は巡回監視の業務	日額710円		

(注) 手当別の支給職員数及び年間支給額は、支給後の追給、返納分を含まない。

(オ) 時間外勤務手当

支給実績(27年度決算)	21,124千円
職員1人当たり平均支給年額(27年度決算)	440千円
支給実績(26年度決算)	23,748千円
職員1人当たり平均支給年額(26年度決算)	485千円

(注1) 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

(注2) 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績(○年度決算)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数(管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。)であり、短時間勤務職員を含む。

(カ) その他の手当（平成28年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	一般行政職 の制度との 異同	一般行政職 の制度と異 なる内容	支給実績 (27年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (27年度決算)
扶養手 当	<p>扶養親族のある職員に支給する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○配偶者 13,000円 ○扶養親族たる子 6,800円 ・配偶者がいない場合そのうち1人 11,300円 ・満16歳に達する年度の初めから満22歳の年度末までの子1人につき5,300円加算 ○配偶者及び子以外の扶養親族 6,500円 ・配偶者がいない場合そのうち1人 11,000円 	同じ		8,717 千円	249,100 円
住居手 当	<ul style="list-style-type: none"> ○借家・借間に居住する場合 ・支給対象者 自ら居住するため借り受け月額12,000円を超える家賃 ・間代を支払っている職員 ・全額支給限度額 13,000円 ・2分の1加算限度額 17,000円 ・最高支給限度額 30,000円 ○単身赴任中の留守宅の場合 ・支給対象者 単身赴任手当を受給している者で配偶者等が居住するため借り受け月額12,000円を超える家賃・間代を支払っている職員 ・借家・借間に居住する場合の2分の1の額 	同じ		2,903 千円	322,600 円
通勤手 当	<p>通勤のため交通機関等や自動車等を使用することを常例とする職員に支給する。</p> <p>交通機関等利用者の1か月当たり最高支給限度額75,000円</p> <p>交通用具使用者の算出方法</p> <p>距離に応じた基準額（2,000円～5,800円）＋加算額（3kmを超える1kmにつき175円～570円）</p>	同じ		18,912 千円	350,200 円
管理職 手当	<p>管理又は監督の地位にある職員のうち、管理職手当規則で指定する職を占める職員に対し支給する。</p> <p>月額：給料表、職務の級、職の区分に応じ定める額</p>	同じ		6,877 千円	982,400 円

休日勤務手当	勤務時間条例に規定する休日において定められた正規の勤務時間中に勤務を命ぜられた職員に支給する。 1時間当たりの支給額：勤務1時間当たりの給与額×135/100	同じ		436千円	22,900円
初任給調整手当	医学、科学技術その他の専門的知識を必要とし、かつ、採用困難あるいは採用に特別の事情があると認められる職員に支給する。 月額：17,100円～413,300円	同じ			
単身赴任手当	公署を異にする異動等に伴い転居し配偶者と別居し、単身で生活することを常況とする職員に支給する。 月額：月額26,000円＋交通距離の区分に応じた加算額	同じ			
夜間勤務手当	正規の勤務時間として午後10時～翌日の午前5時までの間に勤務した職員に支給する。 1時間当たりの支給額：勤務1時間当たりの給与額×25/100	同じ			
宿日直手当	宿日直勤務を命ぜられた職員に支給する。 1回当たり：4,200円～7,200円	同じ			
管理職員特別勤務手当	管理職手当の支給を受ける職員が、①臨時又は緊急の必要その他の公務の運営の必要により週休日又は休日に勤務した場合、②災害への対処等の臨時・緊急の必要によりやむを得ず平日深夜（午前0時から午前5時までの間）に勤務した場合、のいずれかに該当する場合に支給する。 1回当たり：上記①の場合3,000円～12,000円（ただし、6時間を超える場合の勤務にあつては、100分の150を乗じて得た額）、上記②の場合1,500円～6,000円	同じ			

③ 地域振興整備事業

ア 職員給与費の状況

決算

区 分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 26年度の総費用に占 める職員給与費比率
	千円	千円	千円	%	%
27年度	138,962	▲12,632	47,553	34.2	2.9

(注) 資本勘定支弁職員に係る職員給与費 40,240 千円を含まない。

職員給与費比率が 30 ポイント以上増加した理由は、平成 26 年度に計上した会計基準の見直しに伴う特別損失の皆減により総費用が減少した一方、新規事業に要する人員増により職員給与費が増加したためである。

区 分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
	人	千円	千円	千円	千円	千円
27年度	9	37,990	15,020	15,896	68,906	7,656

(注 1) 職員手当には退職給与金を含まない。

(注 2) 職員数は、平成28年 3 月31日現在の人数である。

イ 職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況 (平成28年 4 月 1 日現在)

区 分	平均年齢	基本給	平均月収額
静岡県	43.7歳	389,766円	686,628円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

ウ 職員の手当の状況

(7) 期末手当・勤勉手当

地域振興整備事業	静岡県 (企業局・がんセンター事業を除く)
1人当たり平均支給額 (27年度) 1,229千円	1人当たり平均支給額 (27年度) 1,606千円
(27年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 (1.45)月分 勤勉手当 1.60 月分 (0.75)月分	(27年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 (1.45)月分 勤勉手当 1.60 月分 (0.75)月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 20～25%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 20～25%

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

(イ) 退職手当（平成28年4月1日現在）

地域振興整備事業			静岡県（企業局・がんセンター事業を除く）		
（支給率）	自己都合	勸奨・定年	（支給率）	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	20.445月分	25.55625月分	勤続20年	20.445月分	25.55625月分
勤続25年	29.145月分	34.5825月分	勤続25年	29.145月分	34.5825月分
勤続35年	41.325月分	49.59月分	勤続35年	41.325月分	49.59月分
最高限度額	49.59月分	49.59月分	最高限度額	49.59月分	49.59月分
その他の加算措置			その他の加算措置		
定年前早期退職特例措置（2%～20%加算）			定年前早期退職特例措置（2%～20%加算）		
（退職時特別昇給 無）			（退職時特別昇給 無）		
1人当たり平均支給額	— 千円	— 千円	1人当たり平均支給額	4,562千円	23,502千円

(注) 地域振興整備事業の1人当たり平均支給額は、公営企業職員（がんセンターを除く）の平成27年度及び平成26年度の支給者が3名以下のため記載なし。

(ウ) 地域手当（平成28年4月1日現在）

支給実績（27年度決算）		1,462千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（27年度決算）		162,400円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度（支給率）
静岡市	3.6%	8人	3.6%
三島市	3.6%	1人	3.6%

(エ) 特殊勤務手当（平成28年4月1日現在）

支給実績（27年度決算）		(なし)			
支給職員1人当たり平均支給年額（27年度決算）		—			
職員全体に占める手当支給職員の割合（27年度）		—			
手当の種類（手当数）		5			
手当名	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価	支給職員数(実人数)	年間支給額
危険現場作業手当	右の業務（管路内作業）に従事した職員	管路内又はトンネル内において行う管の接合箇所への検査若しくは管内の監視又はトンネル内の監視の業務	日額450円		
	右の業務（高所作業）に従事した職員	地上又は水面上10メートル以上の足場の不安定な箇所での監督、測量等の業務	日額310円～360円		
	右の業務（道路上作業）に従事した職員	道路上において、車両の通行を遮断することなく行う工事の監督、検査又は測量の業務	日額310円		

		道路上において行う導水管等の弁の操作、点検若しくは修繕の作業又はこれらの作業に伴う交通整理の業務	日額360円		
特殊構造物内作業手当	右の業務に従事した職員	浄配水場等において行う各槽池等における漏水検査、汚泥堆積状況調査、除じん作業又は排泥作業及び各種機械の点検整備等の業務	日額310円		
有害薬品取扱手当	右の業務に従事した職員	特に危険性を有する薬品等を取り扱う業務	日額310円		
用地交渉等手当	事業課、企業局東部事務所又は企業局西部事務所に勤務する職員のうち右の業務に従事した職員	現地において行う地域振興整備事業に係る土地若しくは公共の用に供する土地の取得若しくは取得に伴う物件の移転の交渉又は公共事業の施行により生ずる損失の補償に係る交渉の業務	日額 1,000円 ~ 1,500円		
災害状況調査手当	右の業務に従事した職員	市町村長が災害対策本部を設置した場合において、当該市町村の地域で災害対策本部が設置されている期間中に、重大な災害が発生した危険な箇所又は発生するおそれの著しい危険な箇所において行う災害状況の調査又は巡回監視の業務	日額710円		

(注) 手当別の支給職員数及び年間支給額は、支給後の追給、返納分を含まない。

(カ) 時間外勤務手当

支給実績 (27年度決算)	9,195千円
職員1人当たり平均支給年額 (27年度決算)	1,149千円
支給実績 (26年度決算)	6,698千円
職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)	1,675千円

(注1) 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

(注2) 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績 (○年度決算)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数(管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。)であり、短時間勤務職員を含む。

(カ) その他の手当（平成28年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	一般行政職 の制度との 異同	一般行政職 の制度と異 なる内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (26年度決算)
扶養手 当	扶養親族のある職員に支給する。 ○配偶者 13,000円 ○扶養親族たる子 6,800円 ・配偶者がいない場合そのう ち1人 11,300円 ・満16歳に達する年度の初め から満22歳の年度末までの子 1人につき5,300円加算 ○配偶者及び子以外の扶養親 族 6,500円 ・配偶者がいない場合そのう ち1人 11,000円	同じ		1,816千円	302,700円
住居手 当	○借家・借間に居住する場合 ・支給対象者 自ら居住するため借り受け 月額12,000円を超える家賃 ・間代を支払っている職員 ・全額支給限度額 13,000円 ・2分の1加算限度額 17,000円 ・最高支給限度額 30,000円 ○単身赴任中の留守宅の場合 ・支給対象者 単身赴任手当を受給してい る者で配偶者等が居住す るため借り受け月額12,000円 を超える家賃・間代を支払 っている職員 ・借家・借間に居住する場合 の2分の1の額	同じ		1,064千円	354,700円
通勤手 当	通勤のため交通機関等や自動 車等を使用することを常例と する職員に支給する。 交通機関等利用者の1か月当 たり最高支給限度額75,000円 交通用具使用者の算出方法 距離に応じた基準額（2,000円 ～5,800円）＋加算額（3kmを 超える1kmにつき175円～570 円）	同じ		1,346千円	192,300円
管理職 手当	管理又は監督の地位にある職 員のうち、管理職手当規則で 指定する職を占める職員に対 し支給する。 月額：給料表、職務の級、職 の区分に応じ定める額	同じ		798千円	798,000円

休日勤務手当	勤務時間条例に規定する休日において定められた正規の勤務時間中に勤務を命ぜられた職員に支給する。 1時間当たりの支給額：勤務1時間当たりの給与額×135/100	同じ			
初任給調整手当	医学、科学技術その他の専門的知識を必要とし、かつ、採用困難あるいは採用に特別の事情があると認められる職員に支給する。 月額：17,100円～413,300円	同じ			
単身赴任手当	公署を異にする異動等に伴い転居し配偶者と別居し、単身で生活することを常況とする職員に支給する。 月額：月額26,000円＋交通距離の区分に応じた加算額	同じ			
夜間勤務手当	正規の勤務時間として午後10時～翌日の午前5時までの間に勤務した職員に支給する。 1時間当たりの支給額：勤務1時間当たりの給与額×25/100	同じ			
宿日直手当	宿日直勤務を命ぜられた職員に支給する。 1回当たり：4,200円～7,200円	同じ			
管理職員特別勤務手当	管理職手当の支給を受ける職員が、①臨時又は緊急の必要その他の公務の運営の必要により週休日又は休日に勤務した場合、②災害への対処等の臨時・緊急の必要によりやむを得ず平日深夜（午前0時から午前5時までの間）に勤務した場合、のいずれかに該当する場合に支給する。 1回当たり：上記①の場合3,000円～12,000円（ただし、6時間を超える場合の勤務にあつては、100分の150を乗じて得た額）、上記②の場合1,500円～6,000円	同じ			

④ がんセンター事業

ア 職員給与費の状況

決算

区 分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 26年度の総費用に占 める職員給与費比率
27年度	千円 31,457,544	千円 ▲198,188	千円 9,376,251	% 29.8	% 29.0

(注) 本事業において資本勘定支弁職員に係る職員給与費は発生していない。

区 分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
27年度	人 941	千円 3,574,175	千円 2,400,849	千円 1,016,741	千円 6,991,765	千円 7,430

(注1) 職員手当には退職給与金を含まない。

(注2) 職員数は、平成28年3月31日現在の人数である。

イ 職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況（平成28年4月1日現在）

医師

区 分	平均年齢	基本給	平均月収額
静 岡 県	45.1歳	604,935円	1,518,479円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

看護師

区 分	平均年齢	基本給	平均月収額
静 岡 県	34.7歳	313,183円	495,433円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

事務職員

区 分	平均年齢	基本給	平均月収額
静 岡 県	40.8歳	347,977円	593,589円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

ウ 職員の手当の状況

(7) 期末手当・勤勉手当

がんセンター事業	静岡県（企業局・がんセンター事業を除く）
1人当たり平均支給額（27年度） 1,546千円	1人当たり平均支給額（27年度） 1,606千円
(27年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 勤勉手当 1.60 月分 (1.45)月分 (0.75)月分	(27年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 勤勉手当 1.60月分 (1.45)月分 (0.75)月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 20～25%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 20～25%

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

(4) 退職手当（平成28年4月1日現在）

がんセンター事業	静岡県（企業局・がんセンター事業を除く）
(支給率) 自己都合 勸奨・定年	(支給率) 自己都合 勸奨・定年
勤続20年 20.445月分 25.55625月分	勤続20年 20.445月分 25.55625月分
勤続25年 29.145月分 34.5825月分	勤続25年 29.145月分 34.5825月分
勤続35年 41.325月分 49.59月分	勤続35年 41.325月分 49.59月分
最高限度額 49.59月分 49.59月分	最高限度額 49.59月分 49.59月分
その他の加算措置 定年前早期退職特例措置（2%～20%加算） （退職時特別昇給 無）	その他の加算措置 定年前早期退職特例措置（2%～20%加算） （退職時特別昇給 無）
1人当たり平均支給額 1,293千円 1,400千円	1人当たり平均支給額 4,562千円 23,502千円

(注)がんセンター事業の勸奨・定年の1人当たり平均支給額は、平成27年度の支給者が3名以下のため退職手当支給者全体の平均支給額を記載している。

(7) 地域手当（平成28年4月1日現在）

支給実績（27年度決算）			233,474千円
支給職員1人当たり平均支給年額（27年度決算）			241,900円
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度（支給率）
長泉町	3.6%	835人	3.6%
静岡市	3.6%	2人	3.6%
がんセンター医療職給料表(1)の適用を受ける職員	15.5%	140人	15.5%

(エ) 特殊勤務手当（平成28年4月1日現在）

支給実績（27年度決算）		291,756千円			
支給職員1人当たり平均支給年額（27年度決算）		388,500円			
職員全体に占める手当支給職員の割合（27年度）		66.4%			
手当の種類（手当数）		4			
手当名	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価	支給職員数（実人数）	年間支給額
臨床等業務手当	右の業務に従事した職員（がんセンター医療職給料表(3)の適用を受ける職員を除く。）	診療、検診その他保健指導又は患者に接する業務	がんセンター医療職給料表(1)及び(2)の適用を受ける職員並びに医療社会事業担当職員、心理判定員は月額6,600円～68,400円 その他の職員は日額310円 医師同時に複数手術又は歯科医師がの管理指導等に従事したときは、次の額を加算する。 ・麻酔科又は集中治療科に勤務する医師 1月につき200,000円 ・それ以外の医師又は歯科医師が、マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔業務に従事した回数1回につき10,000円	309人	125,857千円
放射線作業手当	右の業務に従事した職員	エックス線の照射及び撮影、有害放射線の照射及び測定又は放射性同位元素を使用する業務	日額360円	142人	4,779千円
有害薬品等取扱手当	薬剤師、臨床検査技師又は衛生検査技師	身体に有害なガスの発生を伴う業務、特に危険性を有する薬品等を取り扱う業務又は病理細菌を取り扱う業務	日額310円	18人	1,137千円

夜間看護等手当	看護師又は准看護師	正規の勤務時間による勤務の一部又は全部が深夜(午後10時後翌日の午前5時前の間をいう。)において行われる看護等の業務	1回につき2,040円～6,900円	390人	158,129千円
	がんセンター医療職給料表の適用を受ける職員のうち管理者の定める職員	正規の勤務時間以外の時間において、勤務の時間帯その他に関し管理者が定める特別の事情の下での救急医療等の業務	1回につき1,280円	48人	255千円

(注) 手当別の支給職員数及び年間支給額は、支給後の追給、返納分を含まない。

(オ) 時間外勤務手当

支給実績(27年度決算)	982,489千円
職員1人当たり平均支給年額(27年度決算)	1,058千円
支給実績(26年度決算)	941,158千円
職員1人当たり平均支給年額(26年度決算)	1,053千円

(注1) 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

(注2) 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績(○年度決算)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数(管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。)であり、短時間勤務職員を含む。

(カ) その他の手当(平成28年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績(26年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額(26年度決算)
扶養手当	扶養親族のある職員に支給する。 ○配偶者 13,000円 ○扶養親族たる子 6,800円 ・配偶者がいない場合そのうち1人 11,300円 ・満16歳に達する年度の初めから満22歳の年度末までの子1人につき5,300円加算 ○配偶者及び子以外の扶養親族 6,500円 ・配偶者がいない場合そのうち1人 11,000円	同じ		65,754千円	210,800円

住居手当	<p>○借家・借間に居住する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支給対象者 自ら居住するため借り受け月額12,000円を超える家賃 ・間代を支払っている職員 ・全額支給限度額 13,000円 ・2分の1加算限度額 17,000円 ・最高支給限度額 30,000円 <p>○単身赴任中の留守宅の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支給対象者 単身赴任手当を受給している者で配偶者等が居住するため借り受け月額12,000円を超える家賃・間代を支払っている職員 ・借家・借間に居住する場合の2分の1の額 	同じ		74,676 千円	304,800 円
通勤手当	<p>通勤のため交通機関等や自動車等を使用することを常例とする職員に支給する。</p> <p>交通機関等利用者の1か月当たり最高支給限度額75,000円</p> <p>交通用具使用者の算出方法</p> <p>距離に応じた基準額(2,000円～5,800円)＋加算額(3kmを超える1kmにつき175円～570円)</p>	同じ		99,486 千円	114,600 円
管理職手当	<p>管理又は監督の地位にある職員のうち、静岡県立静岡がんセンター事業職員の給与に関する規程で指定する職を占める職員に対し支給する。</p> <p>月額：給料表、職務の級、職の区分に応じ定める額</p>	同じ		20,763 千円	1,153,500 円
休日勤務手当	<p>静岡県がんセンター局職員就業規程に規定する休日において定められた正規の勤務時間中に勤務を命ぜられた職員に支給する。</p> <p>1時間当たりの支給額：勤務1時間当たりの給与額×135/100</p>	同じ		85,812 千円	129,600 円
初任給調整手当	<p>医学、科学技術その他の専門的知識を必要とし、かつ、採用困難あるいは採用に特別の事情があると認められる職員に支給する。</p> <p>月額：17,100円～413,300円</p>	同じ		450,723 千円	3,219,500 円

単身赴任手当	公署を異にする異動等に伴い転居し配偶者と別居し、単身で生活することを常況とする職員に支給する。 月額：月額26,000円＋交通距離の区分に応じた加算額	同じ		2,598 千円	433,000 円
夜間勤務手当	正規の勤務時間として午後10時～翌日の午前5時までの間に勤務した職員に支給する。 1時間当たりの支給額：勤務1時間当たりの給与額×25/100	同じ		48,745 千円	101,100 円
宿日直手当	宿日直勤務を命ぜられた職員に支給する。 1回当たり：2,000円～20,000円	異なる	1回当たり 4,200円 ～ 7,200円	40,061 千円	134,000 円
管理職員特別勤務手当	管理職手当の支給を受ける職員が、①臨時又は緊急の必要その他の公務の運営の必要により週休日又は休日に勤務した場合、②災害への対処等の臨時・緊急の必要によりやむを得ず平日深夜（午前0時から午前5時までの間）に勤務した場合、のいずれかに該当する場合に支給する。 1回当たり：上記①の場合3,000円～12,000円（ただし、6時間を超える場合の勤務にあつては、100分の150を乗じて得た額）、上記②の場合1,500円～6,000円	同じ		4,511 千円	265,400 円

4 勤務時間その他の勤務条件の状況

(1) 一般職員の勤務時間の状況（平成28年4月1日現在）

勤務時間	開始時刻	終了時刻	休憩時間
7時間45分	8時30分	17時15分	12時00分～13時00分

ア 時差通勤の場合

区分	勤務時間	開始時刻	終了時刻	休憩時間
A勤務(平常)	7時間45分	8時30分	17時15分	12時00分～13時00分
B勤務(時差)		9時15分	18時00分	

(注) 対象は本庁、東京事務所等一部の出先機関に勤務する職員である。

イ 育児又は介護を行う職員の早出遅出勤務の場合

区分	勤務時間	開始時刻	終了時刻	休憩時間
早出勤務	7時間45分	8時00分	16時45分	12時00分～13時00分
遅出勤務A		9時15分	18時00分	
遅出勤務B		9時30分	18時15分	

ウ 自己啓発に係る修学を行う職員の早出勤務の場合

区分	勤務時間	開始時刻	終了時刻	休憩時間
早出勤務	7時間45分	8時00分	16時45分	12時00分～13時00分

(注) イ、ウの対象は、次に掲げる者を除く職員である。

- ① 交替制勤務等の職員
- ② 短時間勤務職員
- ③ 臨時的任用職員及び非常勤職員

早出遅出勤務の利用状況

(単位：人)

	区分	育児を理由とするもの		介護を理由とするもの		自己啓発	計
		早出勤務	遅出勤務	早出勤務	遅出勤務	早出勤務	
知事部局等	平成26年4月	23	13				36
	平成27年4月	23	14				37
教育委員会	平成26年4月						
	平成27年4月						
警察本部	平成26年4月						
	平成27年4月						
合計	平成26年4月	23	13				36
	平成27年4月	23	14				37

(2) 年次有給休暇の使用状況（平成27年）

区分	一人当たり平均使用日数
知事部局等	10.3日
教育委員会	11.0日
警察本部	7.5日

(3) 特別休暇等の導入状況（平成28年4月1日現在）

	概 要
特別休暇等	・下記の特別の事由により、職員が勤務しないことが相当である場合に、必要と認められる期間
	ア 負傷・疾病のため療養する必要がある、勤務しないことがやむを得ない場合
	イ 忌引の場合
	ウ 父母及び配偶者の祭日の場合
	エ 夏季における心身の健康の維持等を図る場合
	オ 学校行事への参加等により家庭生活の充実を図る場合
	カ 結婚する場合
	キ 出産する場合
	ク 生理日において勤務が著しく困難な場合
	ケ 生後1年6月に達しない生児の保育を行う場合
	コ 配偶者が出産する場合
	サ 配偶者の出産前後の期間に子どもの育児を行う場合
	シ 妊産婦が健康診査等を受ける場合
	ス 妊娠中の通勤時の母体保護の場合
	セ 妊娠中に胎児等の健康保持のために休息する場合
	ソ 妊娠障害のため勤務が困難な場合
	タ 乳幼児の健康診査、予防接種の介助を行う場合
	チ 配偶者、父母、子ども等の看護をする場合
	ツ 原子爆弾被爆者の健康診断を受ける場合
	テ ドナーとして骨髄等を提供する場合
ト 被災地等においてボランティア活動に従事する場合	
ナ 配偶者、父母、子ども等の介護をする場合	

(注) 取得要件、取得日数等は、「職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例」及び「職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規則」により定められている。

(4) 介護休暇の取得者数（平成27年度）

（単位：人）

区 分	介護休暇 取得者数	介護休暇承認期間					
		1月以下	1月超え 2月以下	2月超え 3月以下	3月超え 4月以下	4月超え 5月以下	5月超え
知事部局等	男性	1					1
	女性	3		1			2
教育委員会	男性	2		1		1	
	女性	12	2	3	2	1	4
警察本部	男性	1			1		
	女性						
合 計	男性	4		1	1	1	1
	女性	15	2	4	2	1	6

(注) 当該年度に新たに介護休暇を取得した人数である。

(5) 育児休業の取得者数（平成27年度） （単位：人）

区 分		育児休業 取得者数	育児休業承認期間				
			6月以下	6月超え 1年以下	1年超え 1年6月以下	1年6月超え 2年以下	2年超え 2年6月以下
知事部局等	男性	15	10	5			
	女性	96	3	26	28	17	5
教育委員会	男性	5	2	2	1		
	女性	393	1	42	65	105	78
警察本部	男性	1	1				
	女性	54	2	16	4	5	1
合 計	男性	21	13	7	1		
	女性	543	6	84	97	127	84

（注） 当該年度に新たに育児休業を取得した人数である。

(6) 育児のための部分休業の取得者数（平成27年度） （単位：人）

区 分		部分休業 取得者数	部分休業承認期間				
			1年以下	1年超え 2年以下	2年超え 3年以下	3年超え 4年以下	4年超え 5年以下
知事部局等	男性	3	3				
	女性	67	67				
教育委員会	男性	1	1				
	女性	28	24	4			
警察本部	男性						
	女性	33	10	14		2	4
合 計	男性	4	4				
	女性	128	101	18		2	4

（注） 当該年度に新たに育児のための部分休業を取得した人数である。

(7) 育児短時間勤務制度の状況

ア 勤務形態（通常の勤務時間の職員）（平成28年4月1日現在）

	勤務日・時間	週休日
1	月～金に3時間55分ずつ（計19時間35分）	土、日
2	月～金に4時間55分ずつ（計24時間35分）	土、日
3	勤務日3日に7時間45分ずつ（計23時間15分）	土、日と月～金のうち2日
4	勤務日3日のうち2日に7時間45分ずつ、1日に3時間55分（計19時間25分）	土、日と月～金のうち2日

イ 利用実績（平成28年4月1日） （単位：人）

	知事部局等	教育委員会	警察本部
利用実績	45	18	3

(8) 自己啓発等休業の取得者数（平成28年4月1日現在）（単位：人）

区 分	取得者数
知事部局等	2
教育委員会	5
警察本部	

（注） 職員の自主的な能力向上に資するため、大学等課程の履修、国際貢献活動に参加する職員の休業制度である。

(9) 配偶者同行休業の取得者数（平成28年4月1日現在）（単位：人）

区 分	取得者数
知事部局等	2
教育委員会	1
警察本部	

（注） 外国で勤務等をする配偶者と生活を共にすることを希望する職員に与えられる休業である。

5 分限及び懲戒処分の状況

(1) 分限処分者数（平成27年度）

（単位：人）

区 分		降任	免職	休職	降給	合計
知事部局等	勤務実績が良くない場合（法第28条第1項第1号）					
	心身の故障の場合（法第28条第1項第2号、第2項第1号）			35		35
	職に必要な適格性を欠く場合（法第28条第1項第3号）					
	職制等の改廃等により過員等を生じた場合（法第28条第1項第4号）					
	刑事事件に関し起訴された場合（法第28条第2項第2号）					
	条例に定める事由による場合（法第27条第2項）			1		1
	小 計			36		36
	法第28条第4項により失職した者					
教育委員会	勤務実績が良くない場合（法第28条第1項第1号）					
	心身の故障の場合（法第28条第1項第2号、第2項第1号）			47		47
	職に必要な適格性を欠く場合（法第28条第1項第3号）					
	職制等の改廃等により過員等を生じた場合（法第28条第1項第4号）					
	刑事事件に関し起訴された場合（法第28条第2項第2号）					
	条例に定める事由による場合（法第27条第2項）					
	小 計			47		47
	法第28条第4項により失職した者					
警察本部	勤務実績が良くない場合（法第28条第1項第1号）					
	心身の故障の場合（法第28条第1項第2号、第2項第1号）			102		102
	職に必要な適格性を欠く場合（法第28条第1項第3号）					
	職制等の改廃等により過員等を生じた場合（法第28条第1項第4号）					
	刑事事件に関し起訴された場合（法第28条第2項第2号）					
	条例に定める事由による場合（法第27条第2項）					
	小 計			102		102
	法第28条第4項により失職した者					
合 計			185		185	

（注1） 分限処分とは、職員がその職務を十分に果たしえない場合等に、本人の意に反して行う処分を言う。

（注2） 法とは、地方公務員法を言う。

(2) 懲戒処分者数（平成27年度）

（単位：人）

区 分		戒告	減給	停職	免職	合計
知事部局等	法令違反（法第29条第1項第1号）			4	3	7
	職務上の義務違反又は怠慢（法第29条第1項第2号）		2			2
	全体の奉仕者たるにふさわしくない非行（法第29条第1項第3号）					
	小 計		2	4	3	9
教育	法令違反（法第29条第1項第1号）					
	職務上の義務違反又は怠慢（法第29条第1項第2号）	2				2

委員会	全体の奉仕者たるにふさわしくない非行（法第29条第1項第3号）		4	6	3	13
	小計	2	4	6	3	15
警察本部	法令違反（法第29条第1項第1号）		5	1		6
	職務上の義務違反又は怠慢（法第29条第1項第2号）					
	全体の奉仕者たるにふさわしくない非行（法第29条第1項第3号）					
	小計		5	1		6
合計		2	11	11	6	30

(注1) 懲戒処分とは、職員の一定の服務義務違反に対して、道義的責任を追及するために行う処分を言う。

(注2) 法とは、地方公務員法を言う。

(3) 行為別懲戒処分者数（平成27年度） (単位：人)

区分		戒告	減給	停職	免職	合計
知事部局等	給与・任用に関する不正					
	一般服務違反		2			2
	一般非行			3	3	6
	収賄等					
	交通事故犯			1		1
	管理監督責任					
	小計		2	4	3	9
教員委員会	給与・任用に関する不正					
	一般服務違反		2	1		3
	一般非行		1	3	3	7
	収賄等					
	交通事故犯		1	2		3
	管理監督責任	2				2
	小計	2	4	6	3	15
警察本部	給与・任用に関する不正					
	一般服務違反					
	一般非行		4	1		5
	収賄等					
	交通事故犯		1			1
	管理監督責任					
	小計		5	1		6
合計		2	11	11	6	30

(注) 懲戒処分とは、職員の一定の服務義務違反に対して、道義的責任を追及するために行う処分を言う。

6 服務の状況

(1) 服務規律遵守及び倫理の保持に関して講じた施策（平成27年度）

区 分	取 組 内 容
知事部局等	<p><綱紀粛正に関する通知等の発出等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・綱紀の厳正保持及び交通安全意識の徹底に関する通知（夏季・年末） <p><内部監察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な事務執行及び職員の厳正な服務規律を確保するため、内部監察を実施（22か所） <p><倫理ヘルプライン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織内部の不正行為等の早期発見及び不祥事件の未然防止を目的とする倫理ヘルプラインの運用（通報7件） <p><県職員不正行為110番></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県職員による不正行為等の早期発見及び不祥事件の未然防止を目的とする県職員不正行為110番の運用（通報7件） <p><倫理相談窓口></p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理規則の解釈その他法令遵守や職員倫理に係る職員からの相談窓口の運営（相談33件） <p><コンプライアンス委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者を構成員とするコンプライアンス委員会の開催（1回） <p><コンプライアンス推進本部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県庁内部のコンプライアンスに係る基本的な方針や制度の企画を行うコンプライアンス推進本部会議の開催（計3回） <p><コンプライアンスに係る研修の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・所属コンプライアンス担当者、ハラスメント相談員研修 ・職場OJT担当者研修 ・新規採用職員研修 ・階層別研修（3年次、30歳、40歳、新任監督者（班長）、職場力強化（新任課長代理）、新任管理者（課長）） <p><コンプライアンス推進月間における取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月を「コンプライアンス推進月間」と定め、コンプライアンス四原則の自己点検、職場外非行の防止などのテーマ設定による所属コンプライアンス意見交換会及びコンプライアンス検定による知識の再確認などの取組を実施 <p><コンプライアンス推進旬間における取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月下旬にコンプライアンス推進旬間を設定し、映像教材の視聴やアルコール体質測定の結果を基に、部局内所属で一斉に意見交換会を実施（参加人数：5,480名）
教育委員会	<p><通報制度の運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員ヘルプライン（15件） ・倫理110番（112件） <p><内部監察の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な事務執行及び教職員の勤務状況等について内部監察を実施（高校20校） <p><不祥事根絶推進月間（6月）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校種、全校に対し、綱紀の厳正保持に関する指導の徹底、学校として不祥事根絶への取組体制づくり等を通知 ・研修資料「信頼にこたえる」追加事例を作成、全校種、全校へ配布、校内研修での活用を指導 ・「ハラスメント防止指針」リーフレットを全教職員へ配布 <p><コンプライアンスに係る研修の実施></p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事根絶担当者研修会（8月） 全校種、全校の不祥事根絶担当者を対象とした悉皆研修として実施（東・中・西 計5回開催） ・臨床心理士による講義「不祥事発生のメカニズム」～相談できる存在の大切さ ・各校の取組に関する情報交換 <p><教育長からのメッセージ等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Eジャーナルしずおかへの教育長メッセージ掲載 ・市町教育委員会委員長、教育長会議において指導の徹底を依頼 ・Eジャーナルしずおかに「コンプライアンスだより」を掲載（10月以降、月1回掲載）（内容：学校が失ってはならない「信頼」、不祥事根絶の取組紹介など） <p><「不祥事根絶データベース」の活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校における不祥事根絶研修等の取組実績、取組計画及び研修等で使用した資料を閲覧できるホームページを開設（H27. 3）し、情報の共有化 <p><臨床心理士活用事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士による不祥事案を起こした当該者への心理調査面談を通して、事犯発生の背景・要因等の分析
警察本部	<p><通達・資料の発出></p> <ul style="list-style-type: none"> ・規律の振粛と各種事故防止に関する通達（年末・人事異動期） ・非違事案の未然（再発）防止に関する各種資料 <p><教養の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・警部昇任予定者に対する教養 ・各年代別の小集団討議形式の教養 <p><内部監察の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合監察（14警察署） 監察実施者等及び各署の幹部による意見交換会の実施 ・随時監察（本部所属、執行隊、警察署、交番・駐在所計388回） <p><上局による監察の受監></p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察庁、関東管区警察局による総合監察、随時監察（述べ 本部24所属、警察署12署）

(注) 上記の施策は、静岡県職員倫理条例第5条に基づき、併せて公表するものである。以下、(4)、(5)についても同様である。

(2) 職務専念義務の免除

	概 要
免除の対象となる主な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・地方公務員法第35条の職務専念義務は、下記のような場合に免除される。 ア 研修を受ける場合(ただし、県が行う研修を除く。) イ 健康診断を受ける場合 ウ 職員団体の交渉等、特定された活動に従事する場合 エ 風水害、交通機関の事故等の不可抗力の原因による場合 オ 裁判員、証人、鑑定人、参考人等として国会、裁判所等へ出頭する場合 カ 国や地方公共団体の職員としての職を兼ね、その事務等を行う場合

(注) 免除される場合や免除の期間等は、「職務に専念する義務の特例に関する条例」及び「職務に専念する義務の免除に関する規則」により定められている。

(3) 兼職・兼業の許可件数（平成27年度）（単位：件数）

区 分	許可件数	主 な 許 可 事 例
知事部局等	391	大学非常勤講師、非常勤医師、手術応援、試験立会、太陽光電気の販売、スポーツ審判員、予備自衛官
教育委員会	4,360	(事務局)問題作成、教材審査、原稿執筆、研究論文選考 (学校)原稿執筆、学習講座等の講師、スポーツ指導員、PTA が主催する勤務時間外の学習講座等の講師、週休日に実施される国家検定試験等監督・採点業務、勤務時間外における私立大学の非常勤講師
警察本部	46	太陽光電気の販売、部活動等指導者、不動産賃貸、国勢調査調査員
合 計	4,797	

(注1) 上記の許可は、地方公務員法第38条第1項及び教育公務員特例法第17条第1項に基づくものである。

(注2) 各市町の教育委員会が許可をする市町立学校の教職員を除く。

(4) 倫理監督職員の許可及び承認件数（平成27年度）（単位：件数）

区 分	許可・承認件数	内 容			
		金銭・物品等の贈与	飲食物の提供	講演料・原稿料	その他
知事部局等	0				
教育委員会	0				
警察本部	0				
合 計	0				

(注) 職員が利害関係者から贈与を受ける場合等には、静岡県職員倫理規則第11条第3項又は第13条第1項に基づく倫理監督職員の許可又は承認が必要である。

(5) 管理職員の贈与等報告書提出件数（平成27年度）（単位：件数）

区 分	報告件数	内 容			
		金銭・物品等の贈与	飲食物の提供	講演料・原稿料	その他
知事部局等	24	1	19	4	
教育委員会	1		1		
警察本部	0				
合 計	25	1	20	4	

(注) 管理職員（管理職手当が支給されている者）は、事業者等から贈与等（1件5千円を超えるもの）を受けた場合には、静岡県職員倫理規則第15条に基づき、贈与等報告書を任命権者に提出しなければならない。

7 退職管理の状況（平成27年度）

区 分	概 要
知事部局等	<ul style="list-style-type: none"> ・定年又は勸奨により退職する職員を対象として、再就職状況の報告や現役職員への働きかけの規制等について、「静岡県退職者の再就職に関する取扱要綱」を定め、再就職に関する公正性及び透明性を確保している。 ・退職時に課長級以上の職にあった職員について、本人の同意に基づき、再就職した者の氏名、退職時の年齢、退職時の補職名、退職日、再就職先の名称及び業務内容、再就職先の地位、再就職日を8月に公表している。 ・地方公務員法の改正に伴い、退職管理に関して公正性及び透明性を一層向上させ、退職管理の適正を確保するために、新たに「静岡県職員の退職管理に関する条例」を制定する等、関係規程の整備を行った。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地方公務員法の改正及び「静岡県職員の退職管理に関する条例」の制定に伴い、退職管理に関して公正性及び透明性を一層向上させ、退職管理の適正を確保するために、新たに「静岡県教育委員会退職者の退職管理に関する取扱要綱」を制定した。
警察本部	<ul style="list-style-type: none"> ・定年又は勸奨により退職する職員に対して、再就職状況の報告及び現職職員への不当な働きかけ防止等について指示し、再就職に関する公正性を確保している。 ・地方公務員法の改正を受け、退職管理の公正性の一層の向上と退職管理の適正を確保するため、新たに制定された「静岡県職員の退職管理に関する条例」にあわせ、「静岡県警察職員の退職管理に関する要綱」を制定し、関係規程の整備を行った。

8 研修の状況

職員研修の概要等（平成27年度）

区 分	概 要
知事部局等	<ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県人材育成基本方針」に基づき、時代の変化に対応した県民本位の生産性の高い行政運営を担う有徳な職員の育成を図るため、研修所研修、職場研修及び派遣研修を実施した。中心となる研修所研修においては、新規採用職員研修や新任管理者研修等、職層の役割意識の徹底を図るための基本研修をはじめ、主体的な能力開発を促す選択研修等、延べ2,738人の職員に研修を実施した。 ・17年度に導入した、職員個人の主体性、自律性を尊重した長期人材育成システムである「静岡県キャリア・デベロップメント・プログラム」の一環として実施しているキャリア開発研修の修了者数は累計で5,032人となった。 ・企業局においては企業局新任職員研修、企業局技術職員研修、水道技術研修などの企業局実施研修、外郭団体等主催研修への参加等を実施した。 ・がんセンター局においては、医療サービスの提供に関わる共通した認識・目標を醸成し、職種を超えて必要な知識・技術の習得を図るため、院内教育研修委員会が中心となり、静岡がんセンター臨床腫瘍学コース全34回のほか、院内、院外の研修・講習会等に職員を参加させるなど人材育成に努めている。また、新規採用職員や異動職員に対しては、年度当初3日間で接遇や医療事故防止などの基本研修を実施した。 ・このほか、国や外部団体等が主催する各種専門研修に職員を参加させた。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県教職員研修指針」に基づき、今日的教育課題に的確に対応できる「頼もしい教職員」の育成を図るため、研修の精選・体系化を進めながら、教職員の専門職としての資質能力の向上を図る研修を実施した。 ・総合教育センター研修と教育委員会事務局各課主催研修を教職員研修企画調整委員会で調整し、新規採用教職員・10年経験者等を対象とする経験段階に応じた研修や職務別研修などの基本研修及び教職員の指導力向上を目指す専門研修等を実施した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・なお、総合教育センター研修においては延べ24,432人（特別研修を除く）、事務局各課主催研修においては延べ27,511人（特別研修を除く）が研修を受講した。
警察本部	<ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県警察教養規則」に基づき、職員に職務倫理を保持させ、階級及び職に応じた能力並びに警察実務に関する知識、技能、体力、判断力及び行動力を養成することを目的に、県警察学校、管区警察学校、警察大学校及び法科学研修所において延べ1,968人の職員に対して教養を実施した。 ・このほか、警察本部が主催する研修会、警察署における全員教養、研修会、術科訓練等、機会を捉えた各種教養を実施した。

9 福祉及び利益の保護の状況

(1) 安全衛生管理体制（平成27年度）

快適な職場環境の実現と職場における職員の安全を確保するため、労働安全衛生法(昭和47年法律第57号)に基づき、各事業所の業種及び規模に応じて、次のとおり衛生管理者や産業医等を選任するとともに、衛生委員会を設置し、安全衛生管理体制を整備している。

(単位：箇所数)

区 分		知事部局等	教育委員会	警察本部	計
総括安全衛生管理者	選任事業場数	2	1	1	4
衛生管理者	選任事業場数	28	130	34	192
安全衛生推進者等	選任事業場数	72	4	12	88
産 業 医	選任事業場数	28	134	34	196
衛 生 委 員 会	設置事業場数	28	134	34	196

(2) 定期健康診断及び特別健康診断の実施状況（平成27年度）

(単位：人、%)

区 分		知事部局等	教育委員会	警察本部	計	
定期健康診断	一般検診 (30歳未満)	対象人員	724	1,046	1,730	3,500
		受診人員	723	1,046	1,730	3,499
		受診率	99.9	100.0	100.0	100.0
	成人病検診 (原則30歳以上、成人検査・雇用時健診を含む)	対象人員	1,880	2,435	1,844	6,159
		受診人員	1,880	2,435	1,844	6,159
		受診率	100.0	100.0	100.0	100.0
	指定年齢検診	対象人員	992	1,098	1,068	3,158
		受診人員	992	1,098	1,068	3,158
		受診率	100.0	100.0	100.0	100.0
	人間ドック (35歳以上の希望者)	対象人員	3,139	3,307	2,363	8,809
		受診人員	3,139	3,307	2,363	8,809
		受診率	100.0	100.0	100.0	100.0
	計	対象人員	6,735	7,886	7,005	21,626
		受診人員	6,734	7,886	7,005	21,625
		受診率	100.0	100.0	100.0	100.0
特別健康診断	対象人員	6,861	3,208	4,806	14,875	
	受診人員	6,809	3,208	4,790	14,807	
	受診率	99.2	100.0	99.7	99.5	

(注) 特別健康診断とは、労働安全衛生法等に基づき、放射線業務など特定の有害業務に従事する職員を対象に実施する健康診断である。

(3) 公務災害等の認定状況（平成27年度） (単位：件数)

区 分		知事部局等	教育委員会	警察本部	計
認定	公務災害	39	140	166	345
	通勤災害	8	10	7	25
	計	47	150	173	370

(注) 教育委員会の欄の数値には、政令市以外の市立学校に関する件数を含む。

(4) 共済組合の運営（平成27年度）

区 分		短期給付に要する費用	長期給付に要する費用	組合の事務に要する費用	福祉事業に要する費用	組合員数
知事部局等	掛 金	3,243,832千円	2,468,419千円	—	73,242千円	8,940人
	負担金	3,221,134千円	5,453,952千円	52,467千円	76,590千円	
教育委員会	掛 金	7,572,565千円	16,170,913千円	—	246,976千円	26,139人
	負担金	7,632,915千円	30,772,449千円	145,685千円	247,019千円	
警察本部	掛 金	1,887,880千円	4,138,855千円	—	58,824千円	7,093人
	負担金	1,845,120千円	7,000,787千円	48,638千円	61,244千円	

(注) 地方公務員等共済組合法に基づく掛金・負担金

(5) その他の主な福利厚生事業の概要（平成27年度）

区 分	概 要
知事部局等	<p><ライフプラン推進事業> 「静岡県職員等ライフプラン推進計画」に基づき、40歳、55歳及び退職直前の職員を対象としたライフプラン講習会の開催等により、職員のライフプラン（生涯生活設計）を支援した。 4,222千円</p> <p><被服の貸与> 現業的業務に従事する職員等に対して、「静岡県職員被服等貸与要綱」に基づき作業衣等を貸与し、職員の勤務条件及び業務能率の向上を図った。 7,100千円</p> <p><職員住宅の維持管理等> ・職員住宅等維持補修費 130,832千円 ・職員住宅等管理費 10,327千円 ・職員住宅等建設費償還金 272,478千円</p> <p>なお、平成27年度末における管理戸数は、幹部職員用住宅30戸、一般職員住宅441戸、単身用住宅192戸、合計663戸である。</p>
教育委員会	<p><ライフプラン推進事業> ・「静岡県教職員等生涯生活設計推進計画」に基づき、採用4年目、45歳、55歳、59歳の教職員を対象に、生活設計、健康管理、生きがいをテーマとしたライフプラン講習会を開催し、職員のライフプラン（生涯生活設計）を推進した。 4,080千円</p> <p><被服の貸与> ・「静岡県教育委員会被服等貸与要綱」に基づき、現業的業務に従事する教職員等に対して、作業衣等を貸与し、教職員の勤務条件及び業務効率の向上を図った。 11,495千円</p> <p><教職員住宅の維持管理等> ・職員住宅維持補修費 92,426千円 ・職員住宅償還金 211,789千円</p> <p>なお、平成27年度末における管理戸数は、校長用住宅23戸、一般職員用(世帯)住宅653戸、一般職員用(単身用)住宅236戸、合計912戸である。</p>
警察本部	<p><ライフプラン推進事業> 採用5年目、40歳、50歳及び退職を数年以内に控えた職員を対象に生活設計、健康、生きがいをテーマとしたライフプランセミナーを開催し、職員のライフプラン（生涯生活設計）を支援した。 519千円</p>

II 静岡県人事委員会の業務状況の報告について

1 競争試験及び選考の状況

職員の任用については、地方公務員法及び職員の任用に関する規則に基づき、平等取扱いの原則及び成績主義の原則により、競争試験及び選考を行っている。選考は、競争試験と比べ限られた対象者から選考基準（経歴、学歴、知識又は技能等）に基づいて判定し、その実施は任命権者からの請求に基づいて行っている。

平成 27 年度の競争試験及び選考は、職員の採用、昇任について、次のとおり実施した。

(1) 競争試験による採用

ア 採用試験の実施日程

(数字は月日)

試験の区分	公告日	受 付 期 間	第 1 次試験		第 2 次試験	
			試験日	合 格 発表日	試験日	合 格 発表日
大学卒業程度	5. 15	5. 15～ 6. 3	6. 28	7. 9	7. 22～ 8. 18	8. 28
短期大学卒業程度		8. 4～ 8. 28	9. 27	10. 6	10. 22～ 10. 27	11. 6
短期大学卒業程度（定期外）	11. 27	11. 27～ 12. 24	1. 17	1. 22	2. 10、16	2. 19
高等学校卒業程度	5. 15	8. 4～ 8. 28	9. 27	10. 6	10. 22～ 10. 27	11. 6
職務経験者 ※上段：行政Ⅱ（知的財産管理・法務）、 土木、建築、農業 下段：行政Ⅰ		5. 27～ 6. 15	7. 12	8. 14	8. 27～ 8. 28	9. 11
					10. 13～ 10. 14	11. 6
職務経験者（定期外）	8. 11	8. 11～ 9. 4	9. 20	10. 6	10. 28	11. 6
身体障害者手帳を有する者	5. 15	7. 7～ 7. 31	9. 20	10. 1	10. 20～ 10. 21	11. 6

試験の区分			公告日	受 付 期 間	第 1 次試験		第 2 次試験	
					試験日	合 格 発 表 日	試験日	合 格 発 表 日
県 内 実 施	警察官 A (大卒)	平成 27 年 10 月採用	3. 12	3. 26～ 4. 8	5. 10	5. 20	6. 1、 6. 15～ 6. 19	7. 17
		平成 28 年 4 月 採用 (第 1 回)					6. 25、26、 8. 19～ 8. 28	9. 11
	警察官 B (大卒以外)	平成 28 年 4 月採用	7. 10	7. 17～ 8. 3	9. 20	9. 30	10. 9、 11. 2～ 11. 6	12. 4
警察官 A (大卒)	平成 28 年 4 月採用	10. 10、11、 11. 9～ 11. 17						
県 外 実 施	警察官 A (大卒)	平成 28 年 4 月採用	2. 27～ 5. 12 の間	4. 1～ 6. 22 の間	5. 10～ 7. 12 の間	5. 22～ 7. 23 の間	8. 22～ 10. 3 の間	9. 18、 10. 20
	警察官 B (大卒以外)		4. 28～ 7. 17 の間	7. 27～ 9. 4 の間	9. 20～ 10. 18 の間	10. 1～ 10. 27 の間	11. 15～ 12. 6 の間	12. 24

注. 県外実施とは、警察官の確保が困難な都府県が他の都道府県と共同して実施している試験で、第 1 次試験までは地元県に依頼し、第 2 次試験を共同で実施するものであり、北海道、青森県、宮城県、山形県、熊本県の 1 道 4 県で実施した。

イ 採用試験の実施状況

(単位：人、倍)

試験の区分・職種		採用予 定者数	申 込 者 数	第1次 受験者数 A	第1次 合格者数	第2次 受験者数	最終合 格者数 B	倍 率 A/B
大学卒業程度	行政	80	635	504	288	272	100	4.3
	教育行政	16					16	
	行政（総合型）	10	300	219	50	43	19	11.5
	小中学校事務	16	85	64	48	47	19	3.4
	警察行政	10	122	87	48	44	14	6.2
	土木	20	61	41	32	31	24	1.7
	農業	15	67	53	45	42	19	2.8
	林業	5	26	21	18	16	10	2.1
	農業土木	5	12	8	6	6	6	1.3
	建築	4	23	18	15	15	5	3.6
	獣医師	15	12	11	11	8	8	1.4
	薬剤師	10	23	19	19	19	16	1.2
	保健師	5	11	9	7	7	5	1.8
	心理	3	21	18	16	15	3	6.0
	児童福祉	3	17	16	10	10	4	4.0
	水産	2	31	20	9	9	2	10.0
	電気	2	13	9	8	8	2	4.5
	電気（研究）	1	4	1	0	0	0	—
	機械	1	4	1	1	1	1	1.0
	工業化学	3	28	20	18	18	6	3.3
金属材料	1	7	6	4	4	2	3.0	
職業訓練指導員（情報処理）	1	3	1	1	1	0	—	
少年警察補導員	2	11	8	6	5	2	4.0	
小 計	230	1,516	1,154	660	621	283	4.1	
短大卒業程度	栄養士	6	53	41	24	20	6	6.8
	定期外 診療放射線技師	1	2	2	2	2	1	2.0
	小 計	7	55	43	26	22	7	6.1
高校卒業程度	行政	3	41	34	18	15	3	11.3
	教育行政	10	105	90	30	28	13	6.9
	小中学校事務	10	86	74	34	34	11	6.7
	警察行政	2	38	36	10	10	2	18.0
	小 計	25	270	234	92	87	29	8.1

試験の区分・職種		採用予定者数	申込者数	第1次受験者数 A	第1次合格者数	第2次受験者数	最終合格者数 B	倍率 A/B		
職務経験者	行政Ⅰ	2	205	156	18	17	3	52.0		
	行政Ⅱ (知的財産管理・法務)	1	5	3	1	1	1	3.0		
	土木	3	26	18	17	16	5	3.6		
	建築	1	10	10	9	8	0	—		
	農業	1	5	5	2	2	1	5.0		
	定期外 行政 (情報システム)	1	11	10	6	4	1	10.0		
	小計	9	262	202	53	48	11	18.4		
身体障がい者	行政	3	26	18	15	14	1	18.0		
	教育行政	2					0			
	小中学校事務	2					0			
	警察行政	3					0			
	小計	10	26	18	15	14	1	18.0		
警察官	県実施	A 10月採用	男性	16	183	121	110	103	25	4.8
			女性	6	33	19	18	16	4	4.8
		A 一般1回	男性	65	530	423	369	305	98	4.3
			女性	10	186	118	92	64	17	6.9
		A 一般2回	男性	25	460	210	167	142	27	7.8
			女性	6	140	50	36	27	6	8.3
		A 語学	ポルトガル語	1	3	2	2	2	1	2.0
			北京語	1	5	4	3	2	1	4.0
		A 情報処理	2	6	2	1	1	1	2.0	
		A 計	132	1,546	949	798	662	180	5.3	
	B 一般	男性	85	607	433	414	375	93	4.7	
		女性	14	186	109	83	77	14	7.8	
	B 情報処理	2	0	0	0	0	0	—		
	B 計	101	793	542	497	452	107	5.1		
	計	233	2,339	1,491	1,295	1,114	287	5.2		
	県外共同	A	6	61	50	14	12	3	16.7	
		B	4	59	45	12	8	4	11.3	
計		10	120	95	26	20	7	13.6		
小計	A	138	1,607	999	812	674	183	5.5		
	B	105	852	587	509	460	111	5.3		
	計	243	2,459	1,586	1,321	1,134	294	5.4		
合計		524	4,588	3,237	2,167	1,926	625	5.2		

注. 行政Ⅰは知事部局に、行政Ⅱは県立静岡がんセンターに勤務する。

(2) 競争試験による昇任

職員の昇任試験は、警察官について実施しており、警部補以下の階級にある警察官を警部、警部補、巡査部長にそれぞれ昇任させるためのものである。

なお、試験の実施に関する事務は、警察本部長に委任している。

□警察官昇任試験の実施状況 (単位：人、倍)

試験の区分	申込者数	受験者数 A	合格者数 B	倍率 A/B
警部	1,192	1,002	47	21.3
警部補	1,500	1,303	145	9.0
巡査部長	1,546	1,482	203	7.3

(3) 選考による採用

競争試験を行っても十分な競争者が得られない場合などは、任命権者からの選考請求に基づき人事委員会が選考している。

□採用選考の実施状況 (単位：人)

選考の区分	任命権者					計
	知事	がんセンター 事業管理者	教育委員会	警察本部長		
1等職（部長、局長等）	4					4
2等職（課長等）	12	5		1		18
警視の職				1		1
競争試験によることが適当 でないと認めた職	19	105	3	31		158
計	35	110	3	33		181

(4) 選考による昇任

職員の昇任は、警察官の競争試験による昇任（警部、警部補、巡査部長への昇任）を除き、選考による。

なお、選考の実施に関する事務は、任命権者に委任している。

□昇任選考の実施状況 (単位：人)

区分		任命権者										計
		知事	企業 管理者	がんセン ター事業 管理者	県議会 議長	選挙 管理 委員会	代表 監査 委員	人事 委員会	教育 委員会	警察 本部長	海区漁 業調整 委員会	
1 等 職	事務	19								11		30
	技術	12										12
	小計	31								11		42
2 等 職	事務	58						1	12	2		73
	技術	42	2	5						5		54
	小計	100	2	5				1	12	7		127
3 等 職	事務	84	3		1		1		13	4		106
	技術	71	4	1			1			6		83
	小計	155	7	1	1		2		13	10		189

区分		任命権者										
		知事	企業 管理者	がんセン ター事業 管理者	県議会 議長	選挙 管理 委員会	代表 監査 委員	人事 委員会	教育 委員会	警察 本部長	海区漁 業調整 委員会	計
4 等 職	事務	50	1	6				1	25	18		101
	技術	83		50						4		137
	小計	133	1	56				1	25	22		238
合 計	事務	211	4	6	1		1	2	50	35		310
	技術	208	6	56			1			15		286
	計	419	10	62	1		2	2	50	50		596

2 給与、勤務時間その他の勤務条件に関する報告及び勧告の状況

地方公務員法第8条、第14条及び第26条の規定に基づき、県議会と知事に対して、平成27年10月15日に職員の給与等について次のとおり報告及び勧告を行った。

(1) 公民給与の比較

(月例給) 公民較差 0.39% 1,505円 (行政職：平成27年4月現在)

(特別給) 公民較差 民間事業所の支給割合 4.19月 (職員 4.10月を0.09月上回る)

(2) 報告及び勧告の内容

ア 平成27年の給与改定

(ア) 月例給

a 給料表

- ・ 初任給は、民間との間に差があることを踏まえ1級の初任給を2,500円引上げ。若年層についても同程度の改定。その他は、給与制度の総合的見直し等により高齢層における公民の給与差が縮小することとなることを踏まえ、1,100円の引上げを基本に改定
- ・ その他の給料表については、行政職給料表との均衡を基本に改定

b 初任給調整手当

医療職給料表(1)の改定状況を勘案し、医師の処遇を確保する観点から引上げ

c 扶養手当

子に係る扶養手当の支給額を300円引上げ

d 地域手当

県内在勤者の特例の支給割合を県内一律3.4%から3.6%に引上げ

e 単身赴任手当

単身赴任手当基礎額を23,000円から26,000円に引上げ

(イ) 特別給 (ボーナス)

民間の支給割合に見合うように引上げ (年間 4.10月 → 4.20月)

(ウ) 実施時期

a 月例給 (給料表、初任給調整手当、扶養手当、地域手当等) 平成27年4月1日

b 特別給 (ボーナス) 平成27年12月1日

イ 給与制度の総合的見直し

給与制度の総合的見直しについては、平成27年4月から実施しており、人事委員会規則等の改正により段階的に措置し、平成30年4月1日に完成させることとしている。

平成27年は民間給与との較差を解消するため、扶養手当及び単身赴任手当の支給額、地域手当の支給割合について改定を行い、平成28年度以降については、毎年の公民較差の状況を見ながら適切に行っていく。

ウ 職員の勤務条件等に関する諸課題

(ア) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進

子育て支援及び介護支援、過度な時間外労働の解消、教職員の多忙化の解消、柔軟で多様な働き方と働きやすい職場環境づくり

(イ) メンタルヘルス対策

精神疾患による長期療養、過労死等が発生することのない職場環境づくり

(ウ) 雇用と年金の接続

再任用職員の能力及び経験の活用の在り方などを検討、国や他の地方公共団体、県内企業の動向に引き続き注視

(エ) 公務員制度改革

平成 28 年 4 月の改正地方公務員法の施行に向けた取組の着実な推進

(オ) 公務に対する信頼の確保

高い使命感、倫理観を持った組織風土や風通しのよい職場環境づくり

<報告・勧告に当たっての参考指標>

民間給与の支給状況		労働経済指標 前年同月比(4月)		標準生計費 (静岡市)		公民給与の較差 (行政職給料表関係 27.4.1)			
ボーナス (特別給)	給与改定	民間給与 [厚生労働省・毎月 勤労統計調査]	物価 (消費者 物価)	4人世帯 (4月)	前年 同月比	民間 給与 (A)	職員 給与 (B)	較差 (A)-(B)	平均 年齢
4.19月分	ペーサップ の 実 施 一般従業員 40.6%	% ▲1.1	% 0.7	円 261,569	% 19.8	円 387,008	円 385,503	円 1,505 (0.39%)	歳 43.1
公務現行 4.10月	管 理 職 (課長級) 33.4%								

3 勤務条件に関する措置の要求の状況

地方公務員法第 46 条の規定による措置の要求は、平成 27 年度に判定した事案がなかった。

4 不利益処分に関する審査請求の状況

地方公務員法第 49 条の 2 の規定による審査請求は、平成 27 年度に裁決した事案がなかった。